

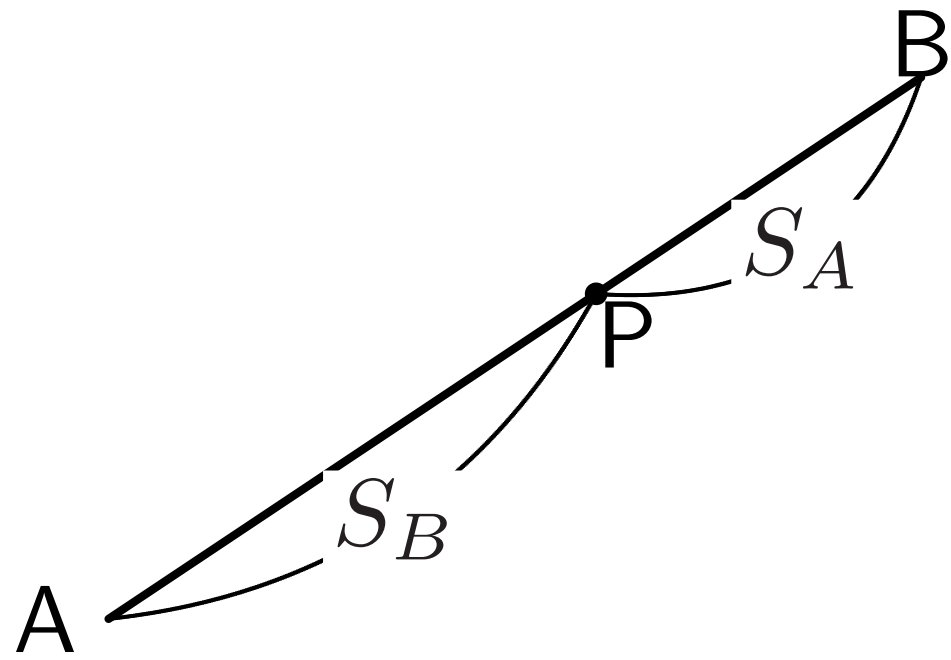
空間の分割

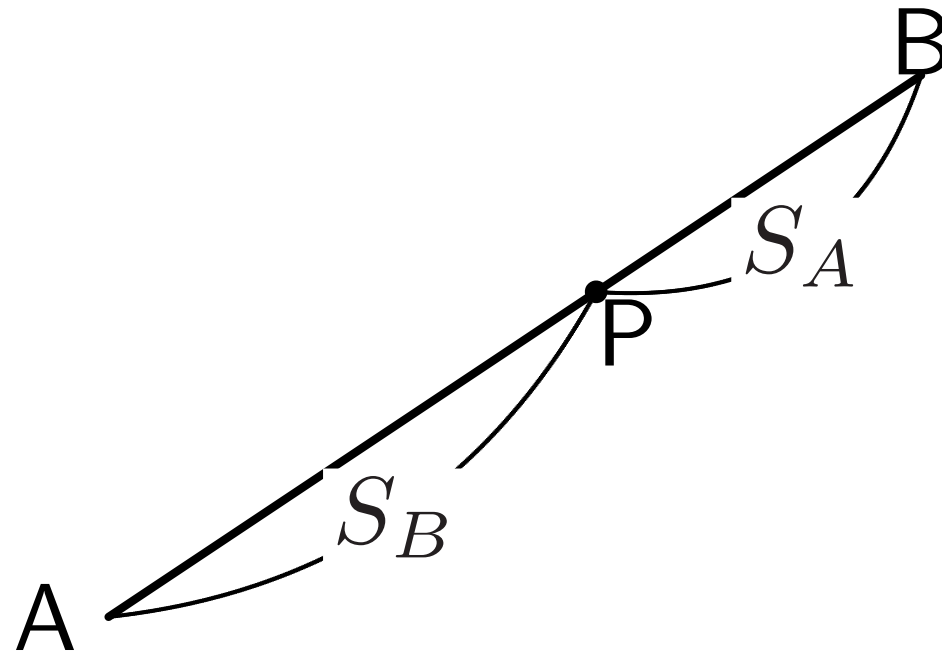
岡山理科大学 理学部 基礎理学科

2005年度 山崎(正)ゼミ

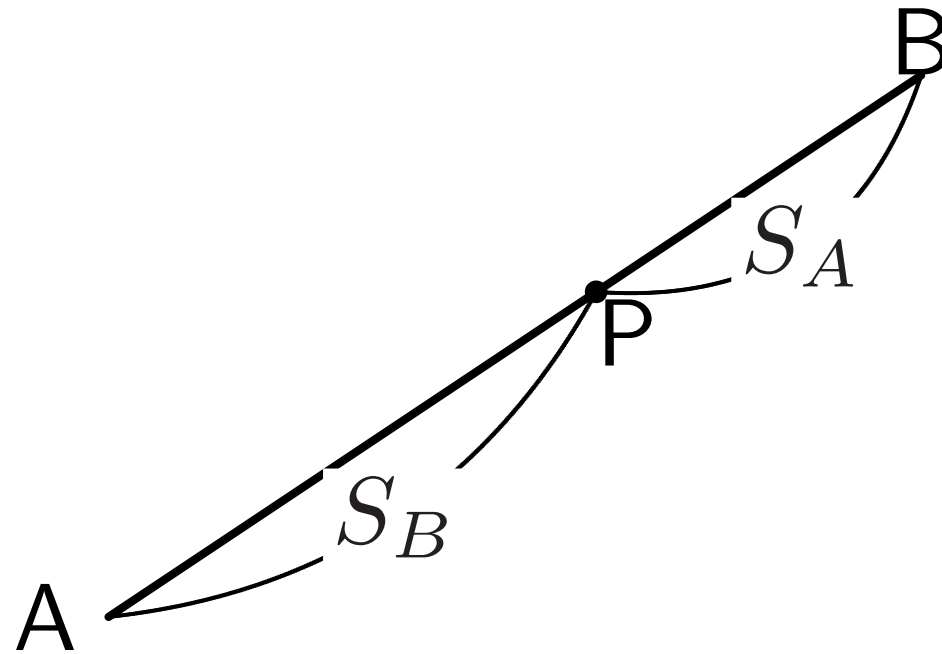
S02S059 田村幸子 S02S074 難波里恵

1. 線分・三角形の重心座標



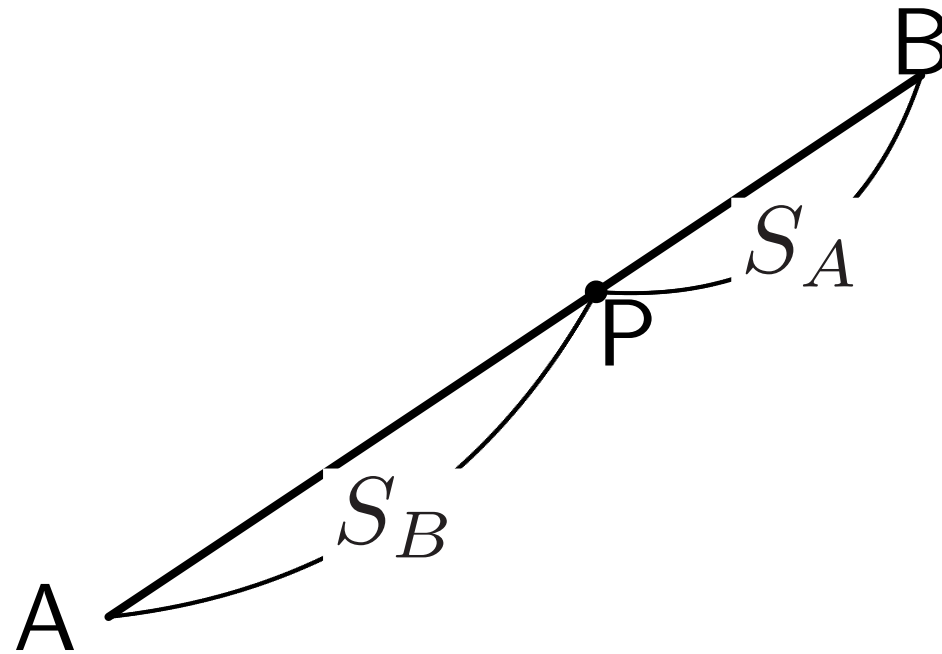


$$\overrightarrow{OP} = \frac{S_A \overrightarrow{OA} + S_B \overrightarrow{OB}}{S_A + S_B}$$



$$\overrightarrow{OP} = \alpha \overrightarrow{OA} + \beta \overrightarrow{OB}$$

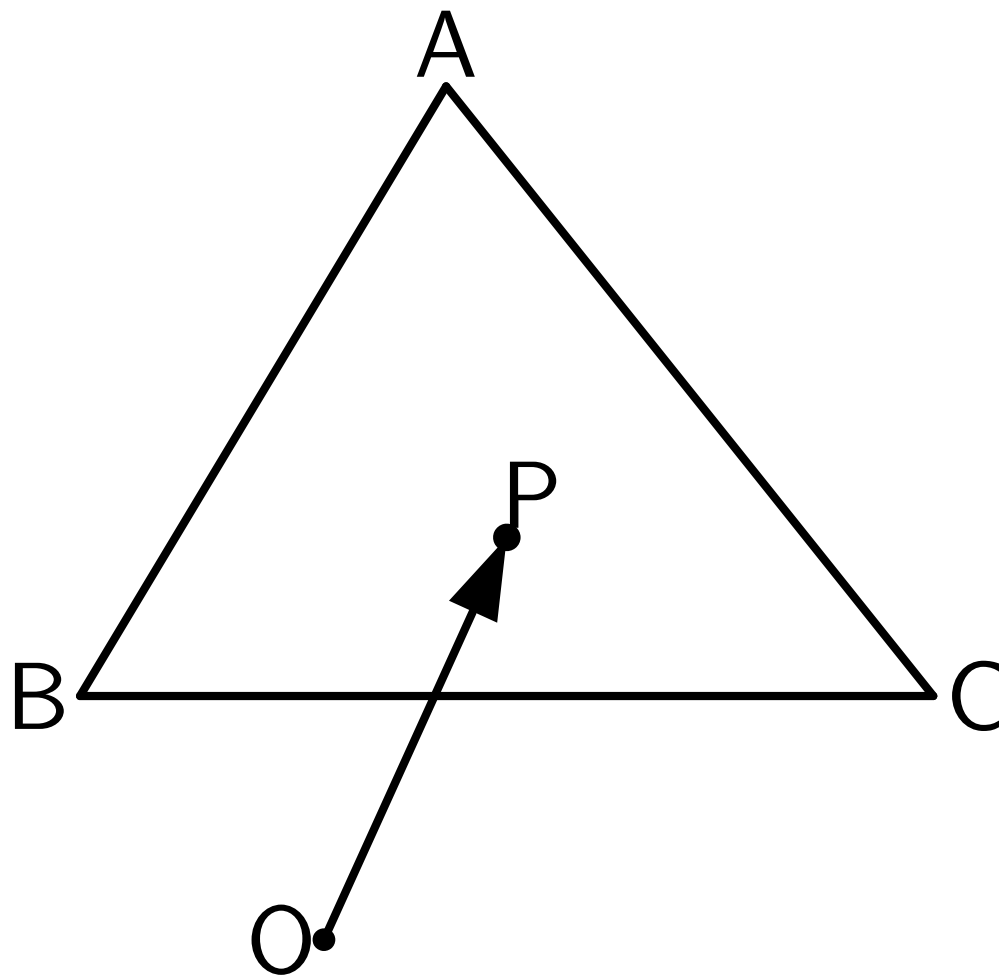
$$(\alpha + \beta = 1, \quad \alpha \geq 0, \quad \beta \geq 0)$$



$$\overrightarrow{OP} = \alpha \overrightarrow{OA} + \beta \overrightarrow{OB}$$

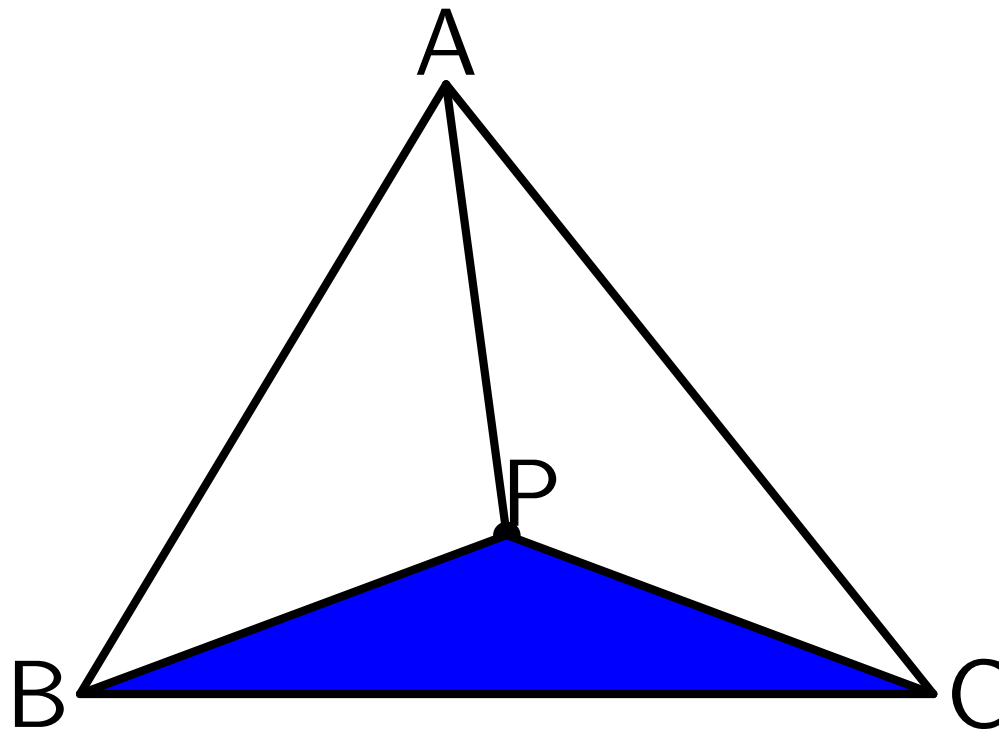
$$(\alpha + \beta = 1, \quad \alpha \geq 0, \quad \beta \geq 0)$$

(α, β) : P の線分 AB における重心座標

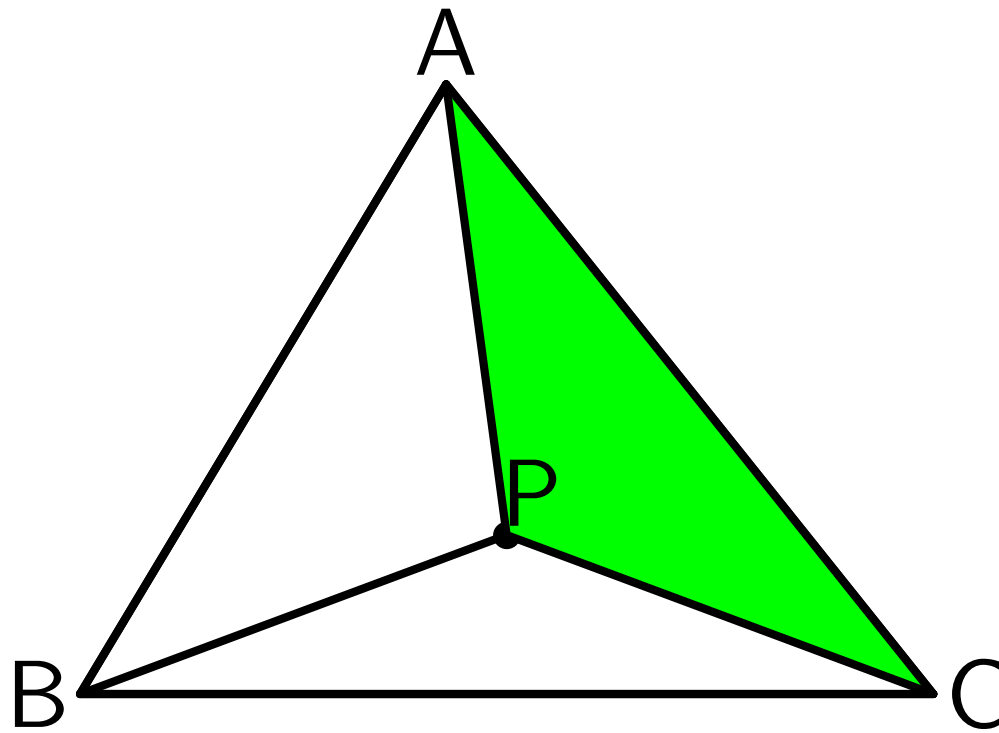


$$\overrightarrow{OP} = \alpha \overrightarrow{OA} + \beta \overrightarrow{OB} + \gamma \overrightarrow{OC}$$

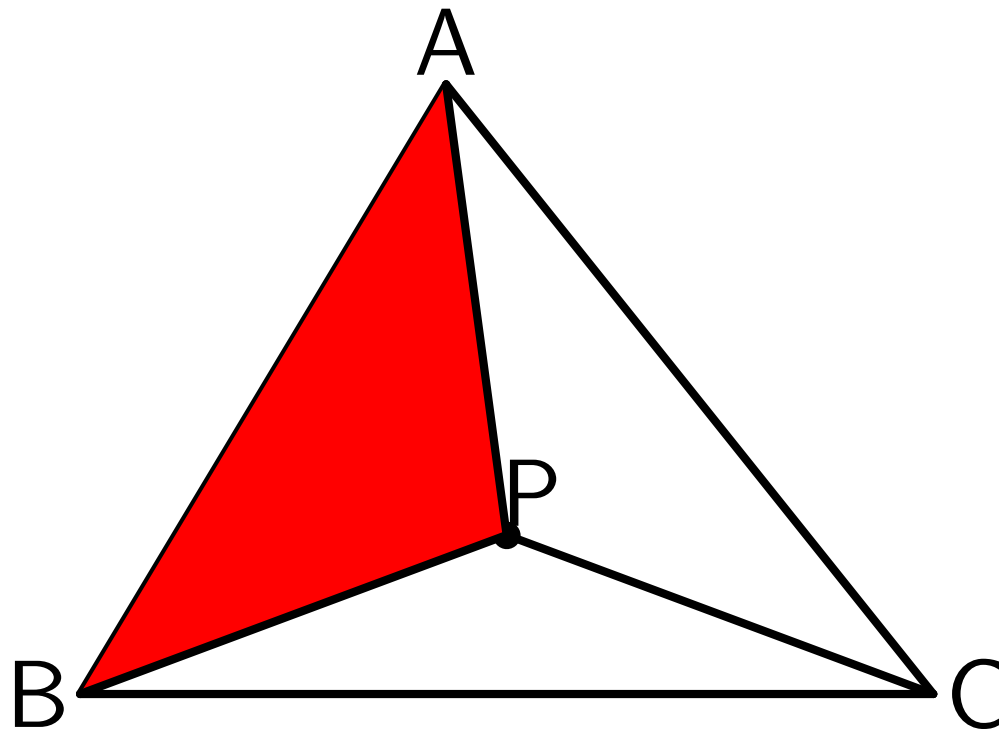
$$(\alpha + \beta + \gamma = 1, \quad \alpha \geq 0, \quad \beta \geq 0, \quad \gamma \geq 0)$$



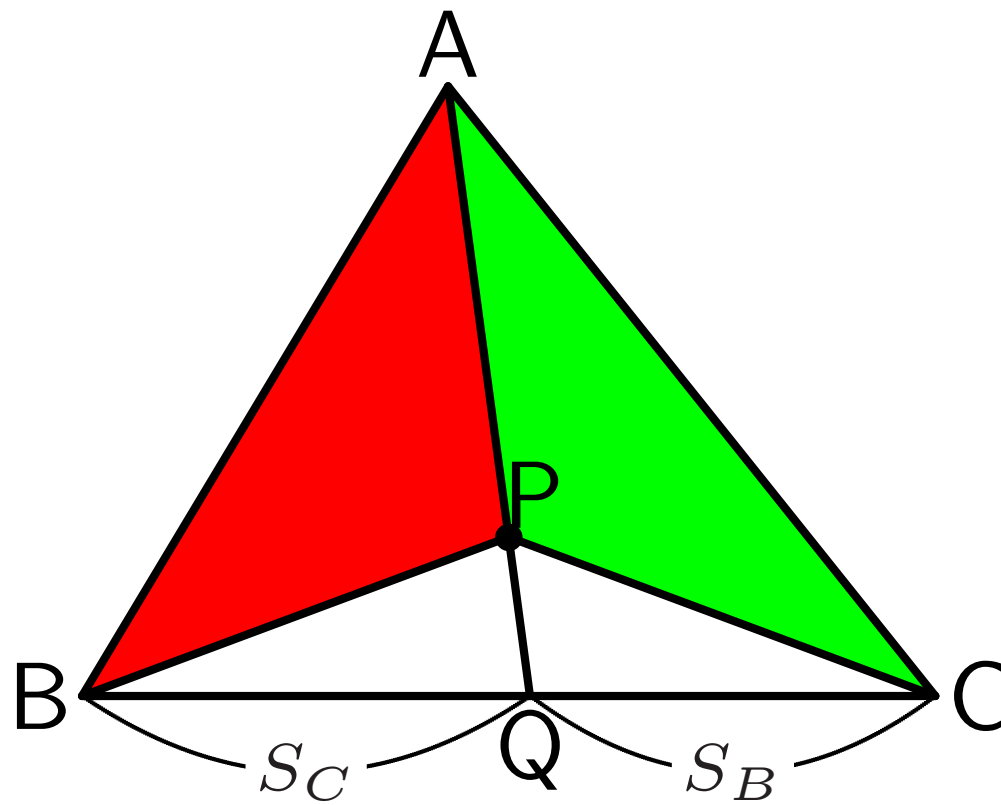
$$S_A = \triangle PBC$$



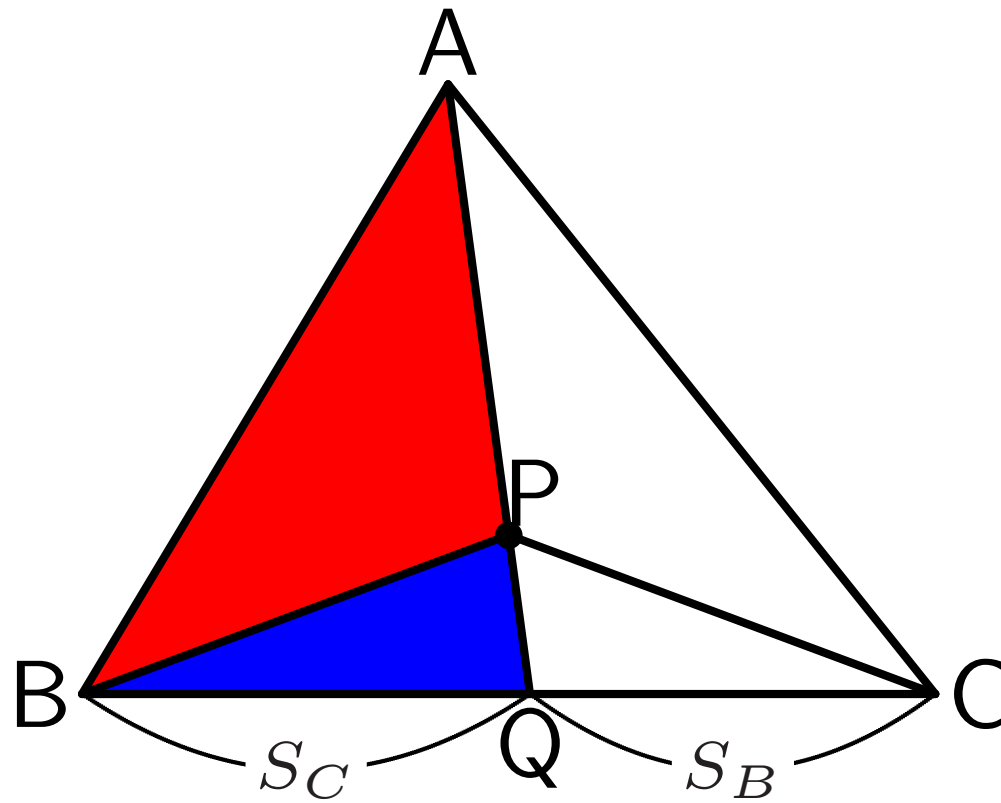
$$S_B = \triangle PCA$$



$$S_C = \triangle PAB$$

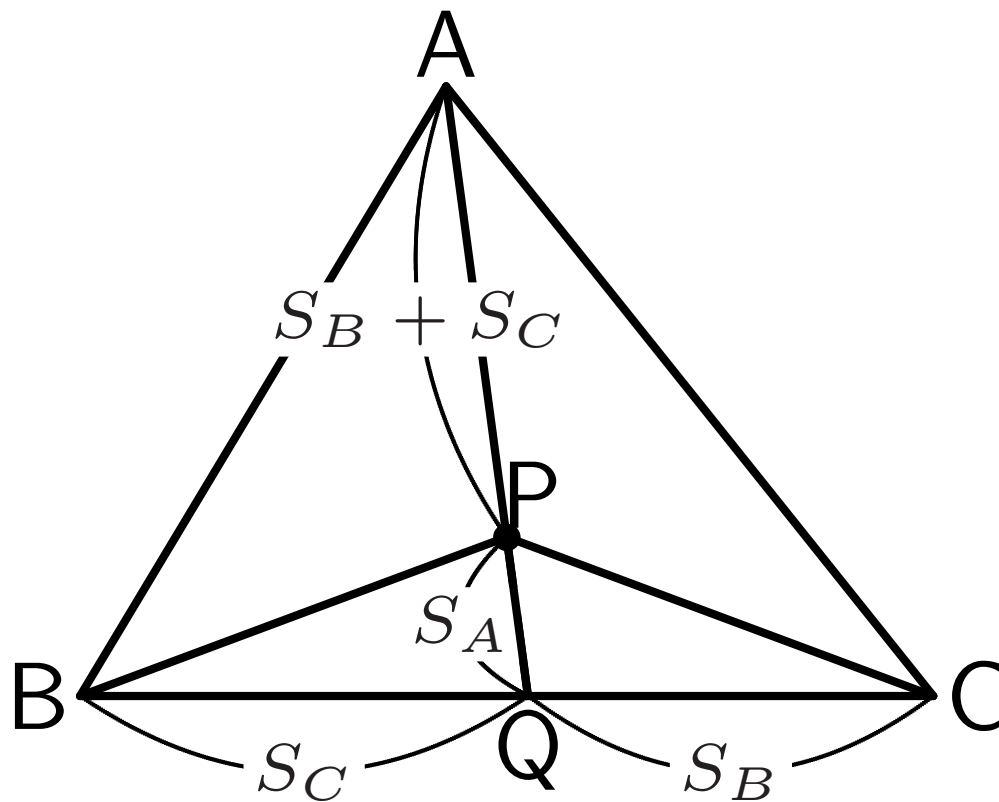


$$BQ : CQ = S_C : S_B$$

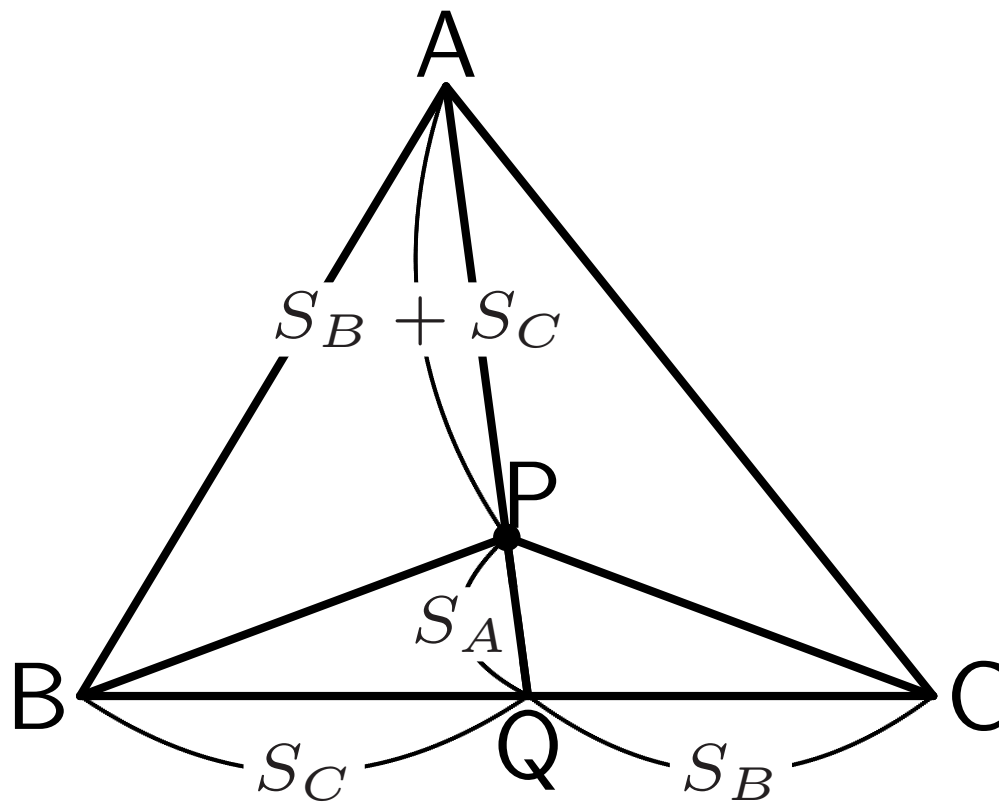


$$\Delta_{PBQ} = \frac{S_C}{S_B + S_C} S_A$$

$$AP : PQ = S_C : \frac{S_C}{S_B + S_C} S_A = (S_B + S_C) : S_A$$



$$\overrightarrow{OQ} = \frac{S_B}{S_B + S_C} \overrightarrow{OB} + \frac{S_C}{S_B + S_C} \overrightarrow{OC}$$



$$\overrightarrow{OQ} = \frac{S_B}{S_B + S_C} \overrightarrow{OB} + \frac{S_C}{S_B + S_C} \overrightarrow{OC}$$

$$\overrightarrow{OP} = \frac{S_A}{S_A + S_B + S_C} \overrightarrow{OA} + \frac{S_B + S_C}{S_A + S_B + S_C} \overrightarrow{OQ}$$

$$\overrightarrow{OP} = \frac{S_A \overrightarrow{OA} + S_B \overrightarrow{OB} + S_C \overrightarrow{OC}}{S_A + S_B + S_C}$$

$$\overrightarrow{\text{OP}} = \frac{S_A \overrightarrow{\text{OA}} + S_B \overrightarrow{\text{OB}} + S_C \overrightarrow{\text{OC}}}{S_A + S_B + S_C}$$

$$\alpha = \frac{S_A}{S_A + S_B + S_C}, \quad \beta = \frac{S_B}{S_A + S_B + S_C},$$

$$\gamma = \frac{S_C}{S_A + S_B + S_C}$$

(1) 重心の重心座標

(1) 重心の重心座標

P が重心の場合、

$S_A = S_B = S_C$ であるから、

(1) 重心の重心座標

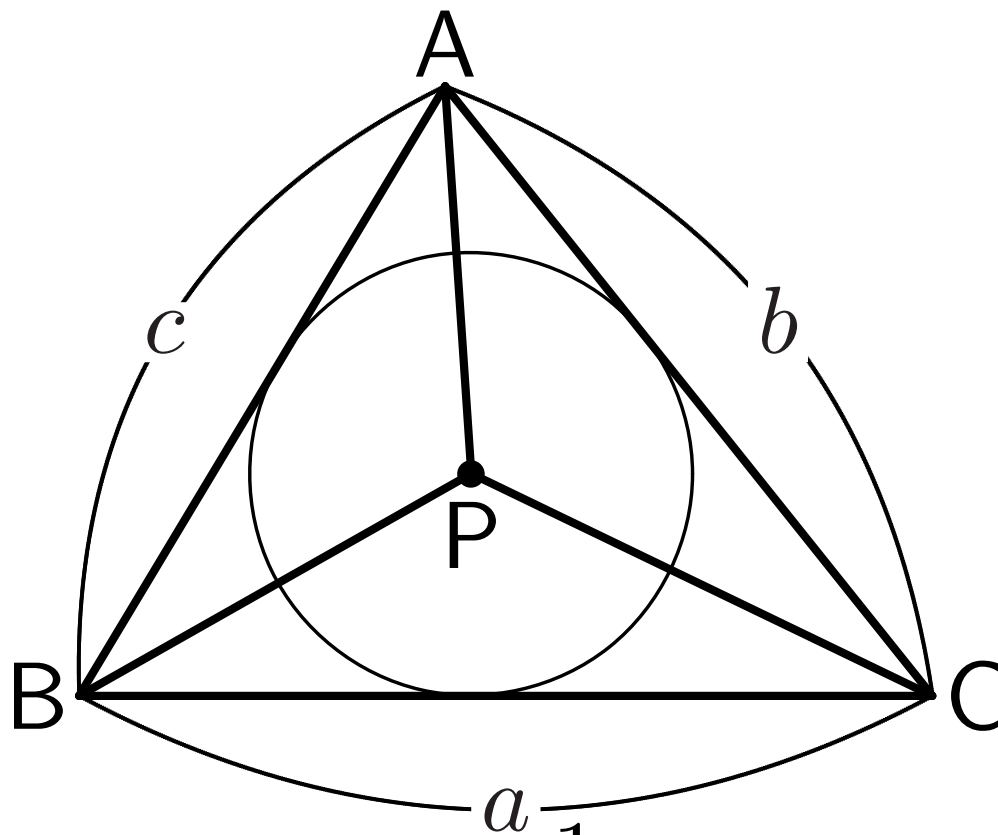
P が重心の場合、

$S_A = S_B = S_C$ であるから、

$$\alpha = \beta = \gamma = \frac{1}{3}$$

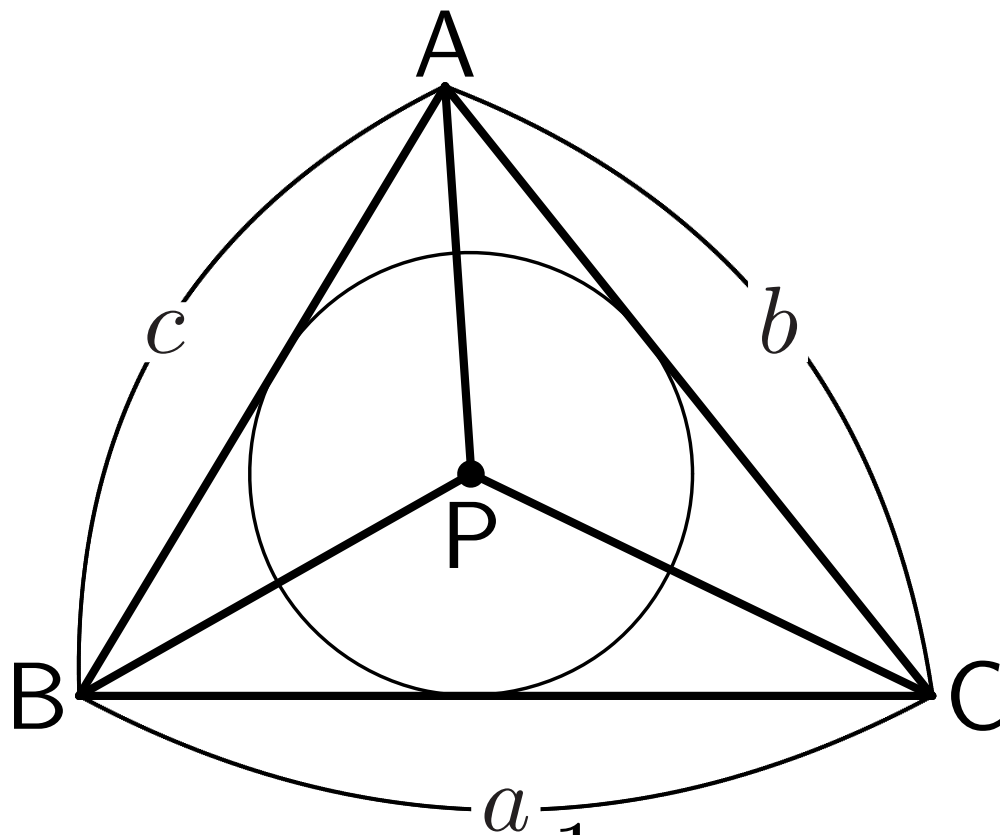
(2) 内心の重心座標

(2) 内心の重心座標



$$S_A = \frac{1}{2} ar, \quad S_B = \frac{1}{2} br, \quad S_C = \frac{1}{2} cr$$

(2) 内心の重心座標

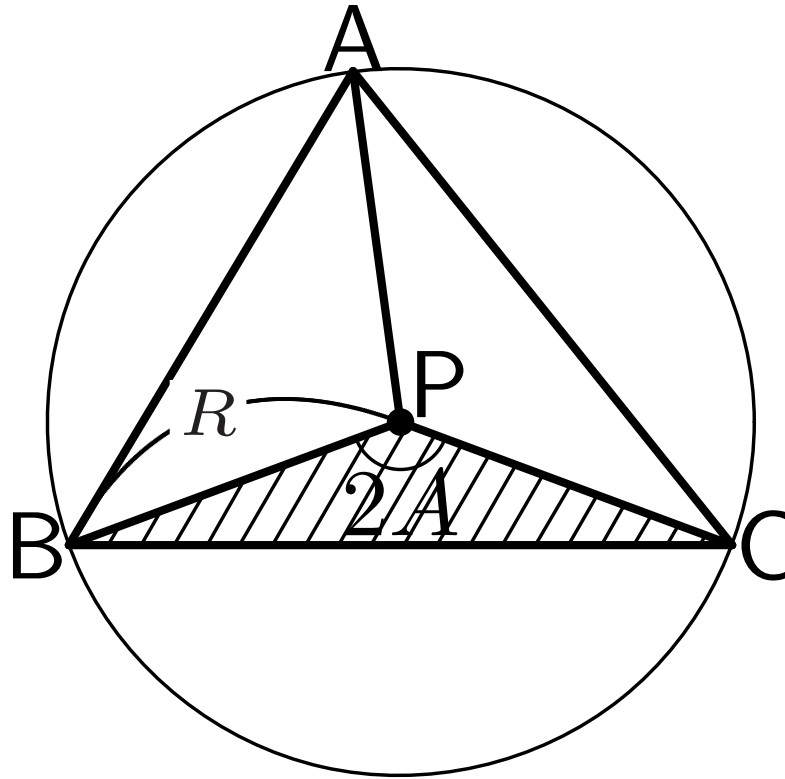


$$S_A = \frac{1}{2} ar, \quad S_B = \frac{1}{2} br, \quad S_C = \frac{1}{2} cr$$

$$\alpha = \frac{a}{a+b+c}, \quad \beta = \frac{b}{a+b+c}, \quad \gamma = \frac{c}{a+b+c}$$

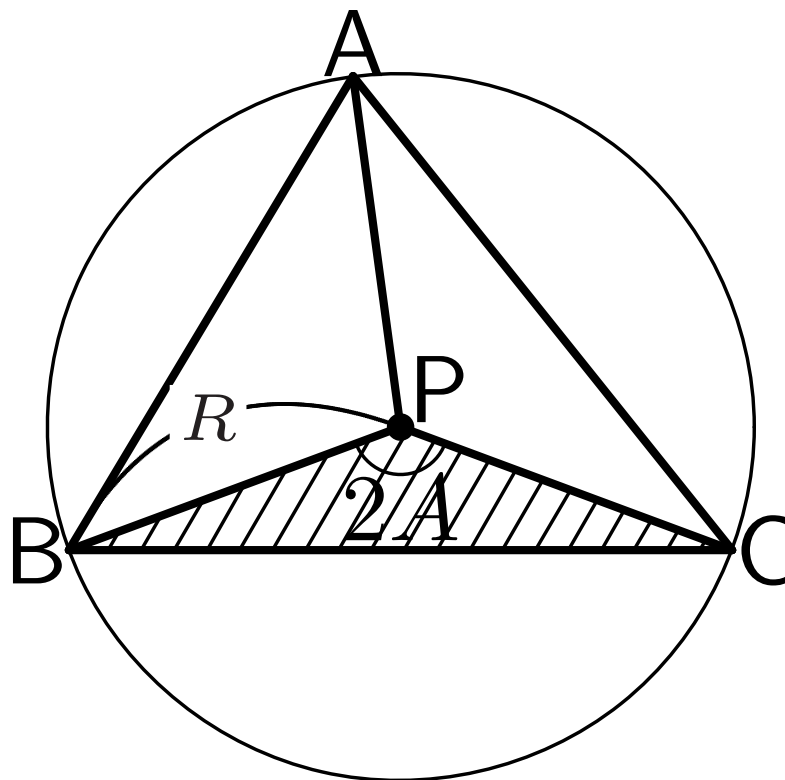
(3) 外心の重心座標

(3) 外心の重心座標



$$S_A = \frac{1}{2} R^2 \sin 2A, \quad S_B = \frac{1}{2} R^2 \sin 2B, \quad S_C = \frac{1}{2} R^2 \sin 2C$$

(3) 外心の重心座標

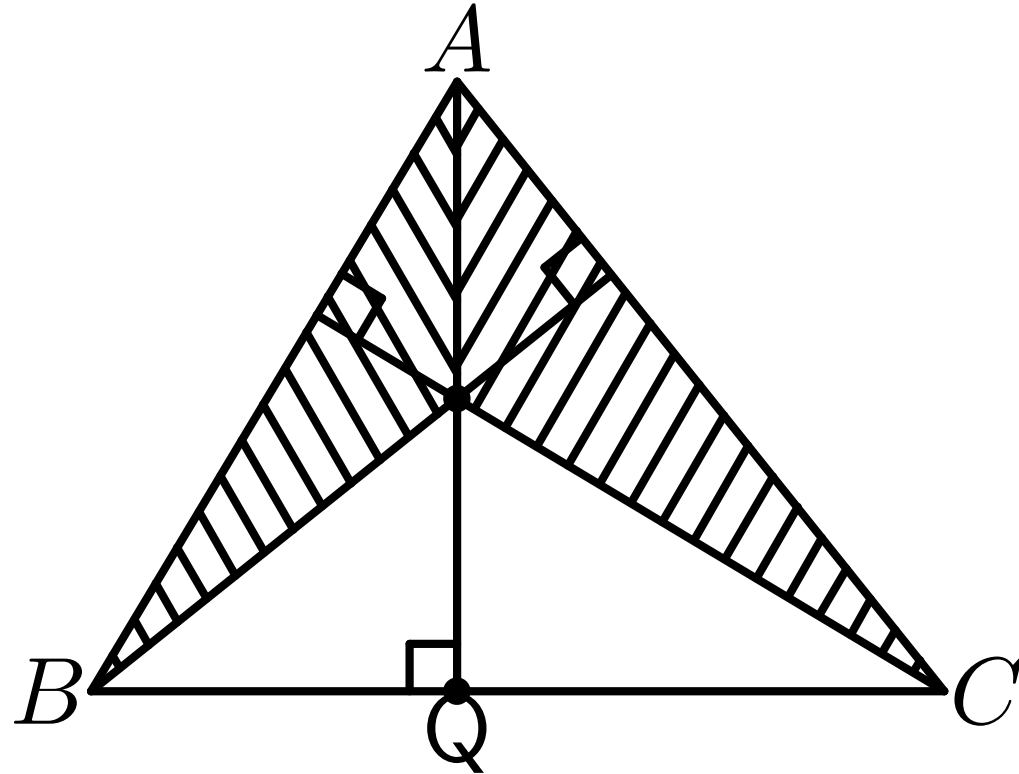


$$\alpha = \frac{\sin 2A}{\sin 2A + \sin 2B + \sin 2C}, \quad \beta = \frac{\sin 2B}{\sin 2A + \sin 2B + \sin 2C},$$

$$\gamma = \frac{\sin 2C}{\sin 2A + \sin 2B + \sin 2C}$$

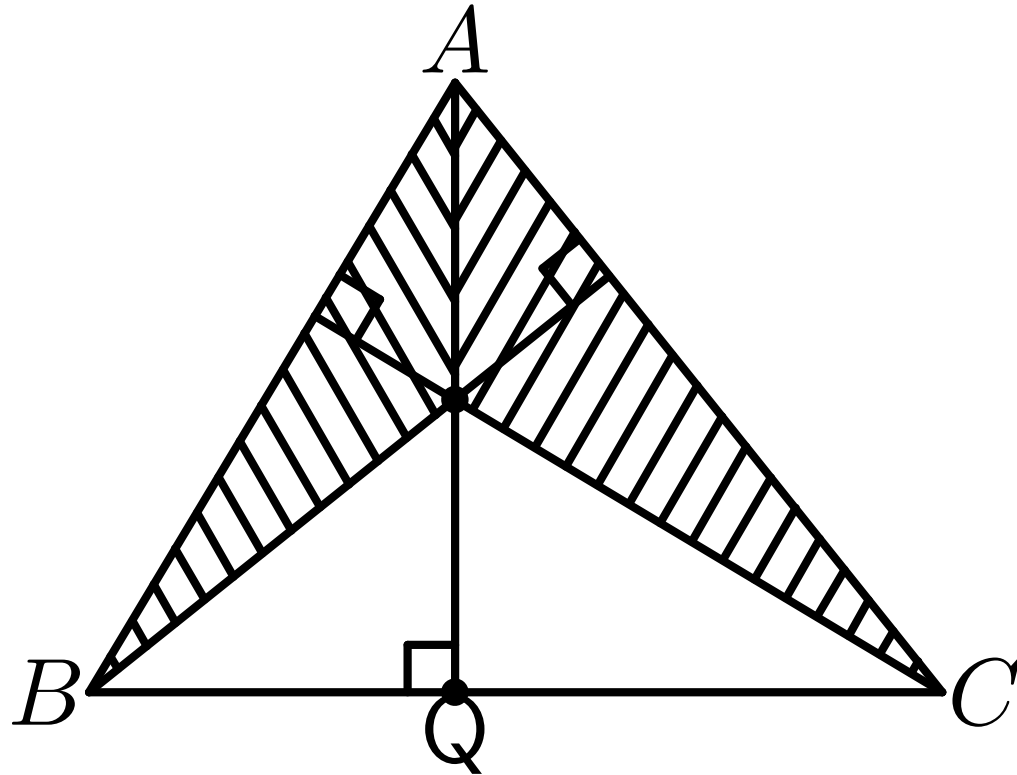
(4) 垂心の重心座標

(4) 垂心の重心座標



$$S_A : S_B : S_C = \tan A : \tan B : \tan C$$

(4) 垂心の重心座標



$$\alpha = \frac{\tan A}{\tan A + \tan B + \tan C}, \quad \beta = \frac{\tan B}{\tan A + \tan B + \tan C},$$

$$\gamma = \frac{\tan C}{\tan A + \tan B + \tan C}$$

2. 单体複体

次は同値：

- 3点 A_0, A_1, A_2 は一直線上にない

次は同値：

- 3点 A_0, A_1, A_2 は一直線上にない
- $\overrightarrow{A_0A_1}, \overrightarrow{A_0A_2}$ は一次独立

次は同値：

- 3点 A_0, A_1, A_2 は一直線上にない
- $\overrightarrow{A_0A_1}, \overrightarrow{A_0A_2}$ は一次独立
- $\overrightarrow{A_1A_2}, \overrightarrow{A_1A_0}$ は一次独立
- $\overrightarrow{A_2A_0}, \overrightarrow{A_2A_1}$ は一次独立

$\overrightarrow{A_0A_1}, \dots, \overrightarrow{A_0A_n}$ が一次独立であるとき、

A_0, A_1, \dots, A_n が一般の位置にある

という。

N 次元ユークリッド空間の $n + 1$ 個の点 A_0, A_1, \dots, A_n が一般の位置にあるとき、それらを含む最小の凸集合を

A_0, A_1, \dots, A_n を頂点とする n 単体

といい、 $|A_0, A_1, \dots, A_n|$ と表す。

また、 n を n 単体の次元という。

n 単体 $|A_0, A_1, \dots, A_n|$ の点 P に対しても、

$$\overrightarrow{OP} = \alpha_0 \overrightarrow{OA_0} + \alpha_1 \overrightarrow{OA_1} + \dots + \alpha_n \overrightarrow{OA_n}$$

$$(\alpha_0 + \alpha_1 + \dots + \alpha_n = 1, \quad \alpha_i \geq 0)$$

となる $(\alpha_0, \dots, \alpha_n)$ が存在する。

これを P の重心座標という。

n 単体 $|A_0, A_1, \dots, A_n|$ の頂点 A_0, A_1, \dots, A_n から $q + 1$ 個の点を選べば、選んだ $q + 1$ 個の点も一般の位置にあり、この $q + 1$ 個の点を頂点とする q 単体が定まる。

これを q 面または面という。

例えば、2 単体 $|A_0, A_1, A_2|$ では、

例えば、2 単体 $|A_0, A_1, A_2|$ では、

0 面は 3 頂点 $|A_0|, |A_1|, |A_2|$

例えば、2 単体 $|A_0, A_1, A_2|$ では、

0 面は 3 頂点 $|A_0|$, $|A_1|$, $|A_2|$

1 面は 3 つの辺 $|A_0, A_1|$, $|A_1, A_2|$, $|A_2, A_0|$

例えば、2 単体 $|A_0, A_1, A_2|$ では、

0 面は 3 頂点 $|A_0|$, $|A_1|$, $|A_2|$

1 面は 3 つの辺 $|A_0, A_1|$, $|A_1, A_2|$, $|A_2, A_0|$

2 面は $|A_0, A_1, A_2|$ 自身

定義： N 次元ユークリッド空間の中の有限個の単体からなる集合 K が次の二つの条件を満たすとき、単体複体または単体的複体という。

定義： N 次元ユークリッド空間の中の有限個の単体からなる集合 K が次の二つの条件を満たすとき、単体複体または単体的複体という。

- (1) S を K に属する単体とするとき、 S の面はまた K に属する。

定義： N 次元ユークリッド空間の中の有限個の単体からなる集合 K が次の二つの条件を満たすとき、単体複体または単体的複体という。

- (1) S を K に属する単体とするとき、 S の面はまた K に属する。
- (2) S, S' を K に属する二つの単体とし、 $S \cap S'$ が空でないとき、それは S の面であると同時に S' の面でもある。

K に属する 0 単体を K の頂点という。

K に属する 0 単体を K の頂点という。

K に属する単体の次元の最大次元を単体複体 K の次元といい、 $\dim K$ とかく。

例 1. S を n 単体とするととき、

$$K(S) = \{ S' \mid S' \text{ は } S \text{ の面} \}$$

は単体複体である。

例 1. S を n 単体とするととき、

$$K(S) = \{ S' \mid S' \text{ は } S \text{ の面} \}$$

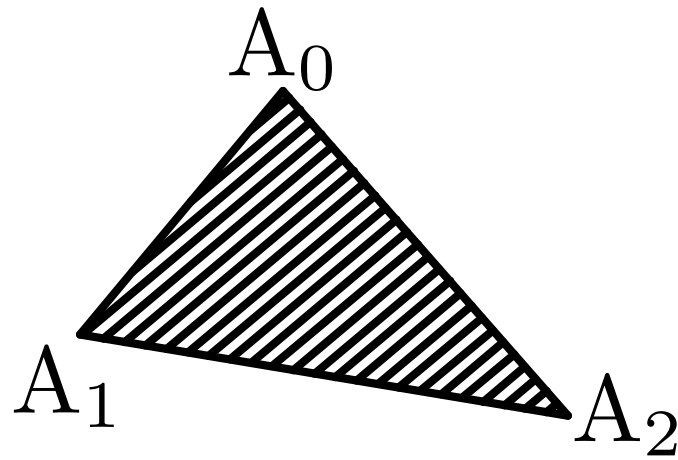
は単体複体である。

$K(S)$ に含まれる単体の中で最高次元の単体は S 自身であるので、

$$\dim K(S) = n .$$

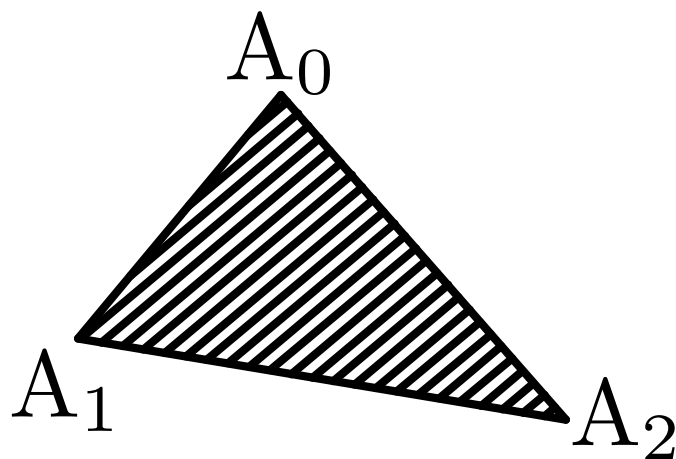
例 1 . (続き)

$$S = |A_0, A_1, A_2|$$



例 1 . (続き)

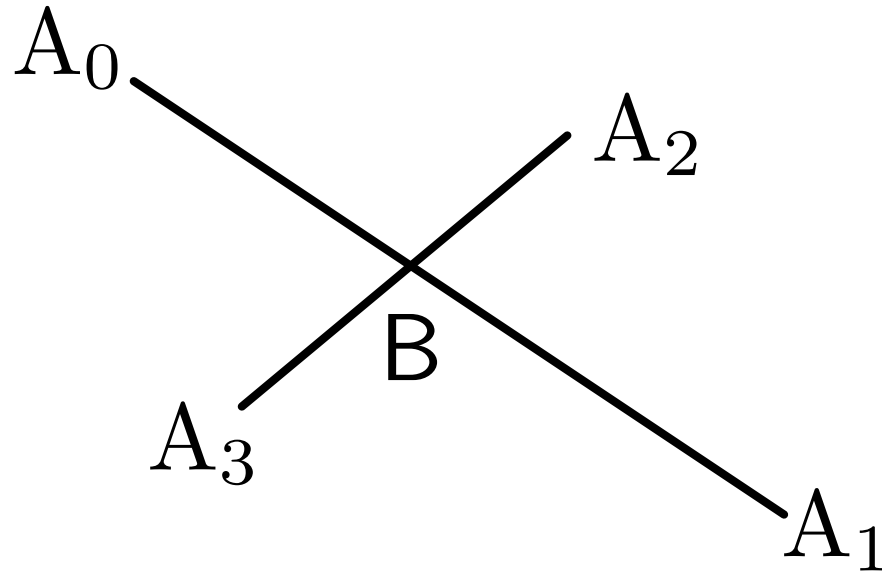
$$S = |A_0, A_1, A_2|$$



$$K(S) = \{ |A_0, A_1, A_2|, |A_0, A_1|, \\ |A_1, A_2|, |A_2, A_0|, |A_0|, |A_1|, |A_2| \}$$

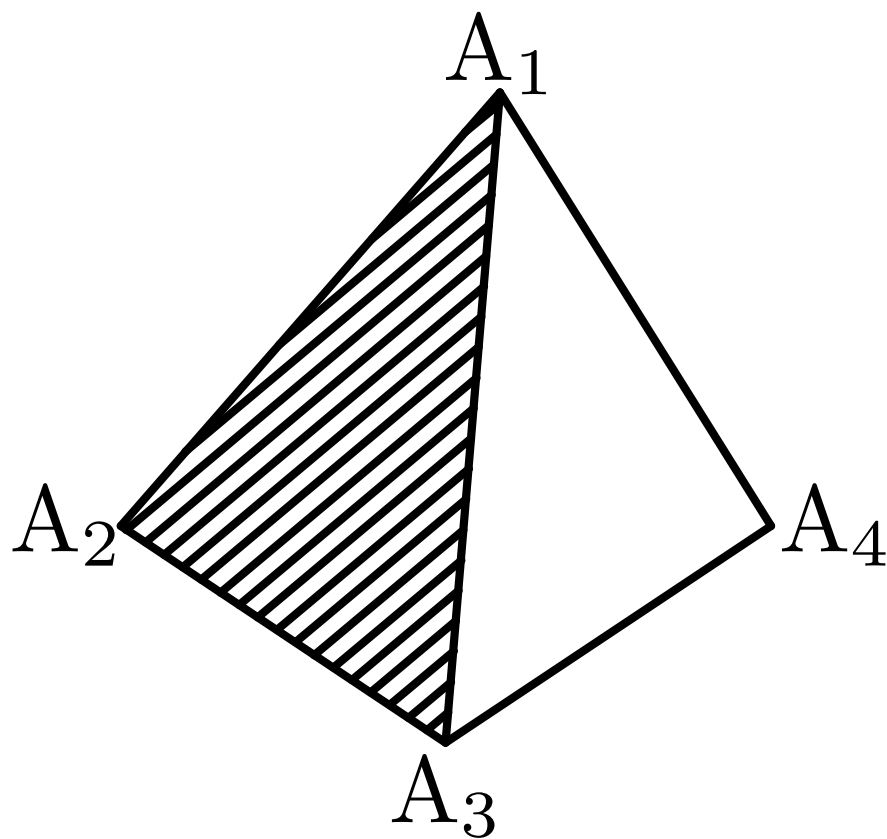
例 2. 条件 (1) を満たし、条件 (2) を満たさない例

$$K = \{|A_0, A_1|, |A_2, A_3|, |A_0|, |A_1|, |A_2|, |A_3|\}$$



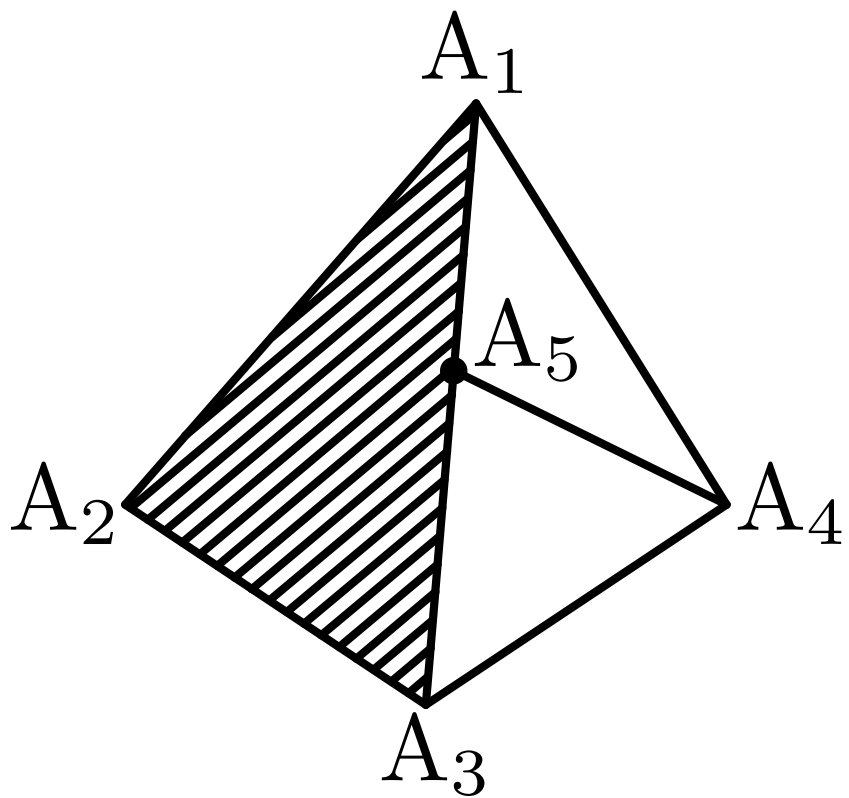
例 3 . 単体複体の例。

$$K = \{ |A_1, A_2, A_3|, |A_1, A_2|, |A_2, A_3|, |A_3, A_1|, \\ |A_3, A_4|, |A_4, A_1|, |A_1|, |A_2|, |A_3|, |A_4| \}$$

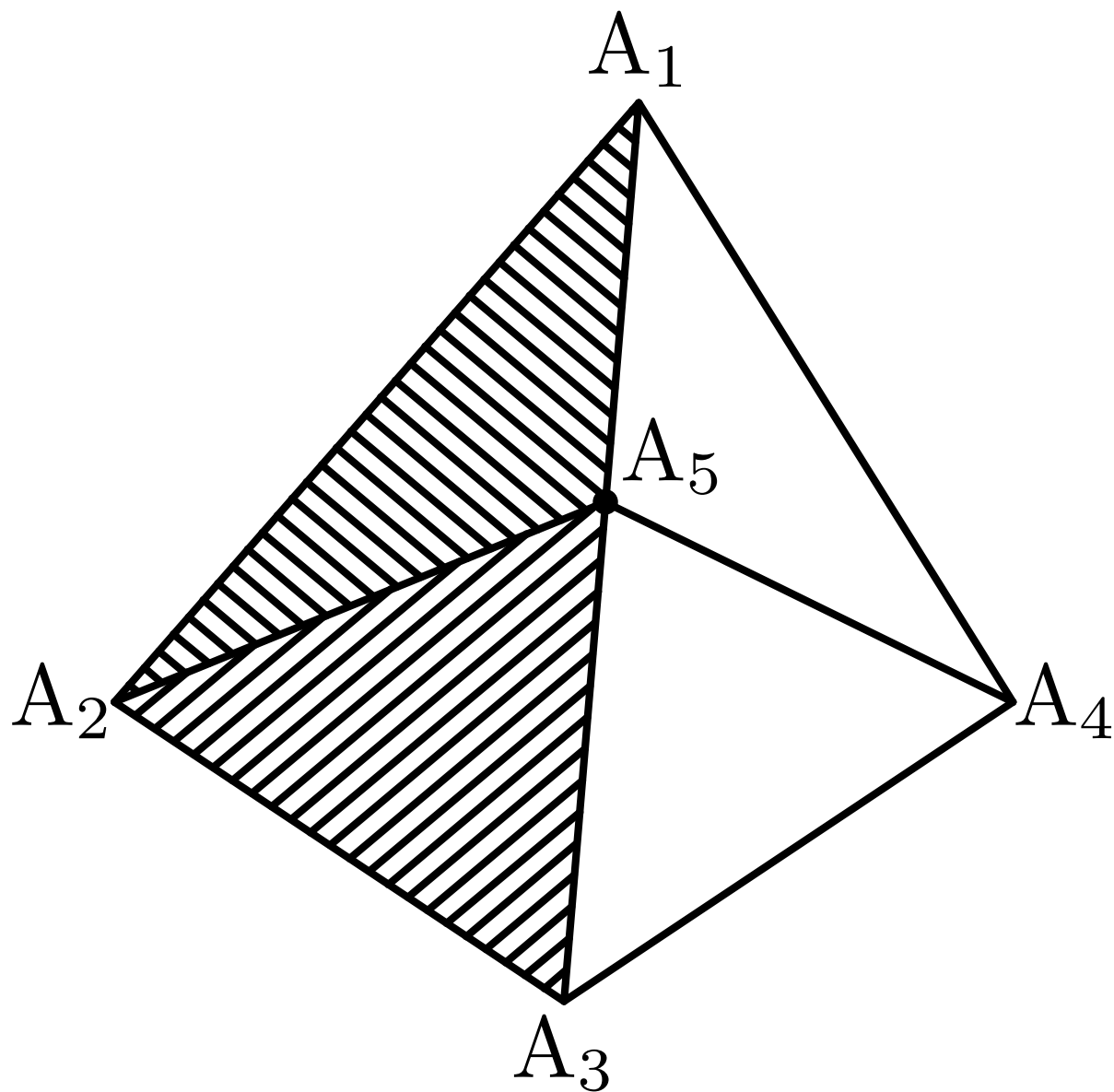


例 4 . 条件 (2) を満たさない例

$$\{ |A_1, A_2, A_3|, |A_1, A_2|, |A_2, A_3|, |A_3, A_1|, |A_3, A_4|, |A_4, A_1|, |A_4, A_5|, |A_1|, |A_2|, |A_3|, |A_4|, |A_5| \}$$



例 5 . 単体複体の例



例 6. S が n 単体ならば

$$K(\partial S) = K(S) - \{S\}$$

は単体 S の境界を表す単体複体である。

例えば $S = |A_0, A_1, A_2|$ に対して、

$$K(\partial S) = \{|A_0, A_1|, |A_1, A_2|, |A_2, A_0|, \\ |A_0|, |A_1|, |A_2|\}$$

は 1 次元単体複体である。

定義 単体複体 K に属する全ての単体の和集合を K の多面体または実現といい $|K|$ と表す。与えられた図形 X に対し $X \cong |K|$ (位相同型) となる K とこの位相同型写像の対を X の単体分割 または 三角形分割という。

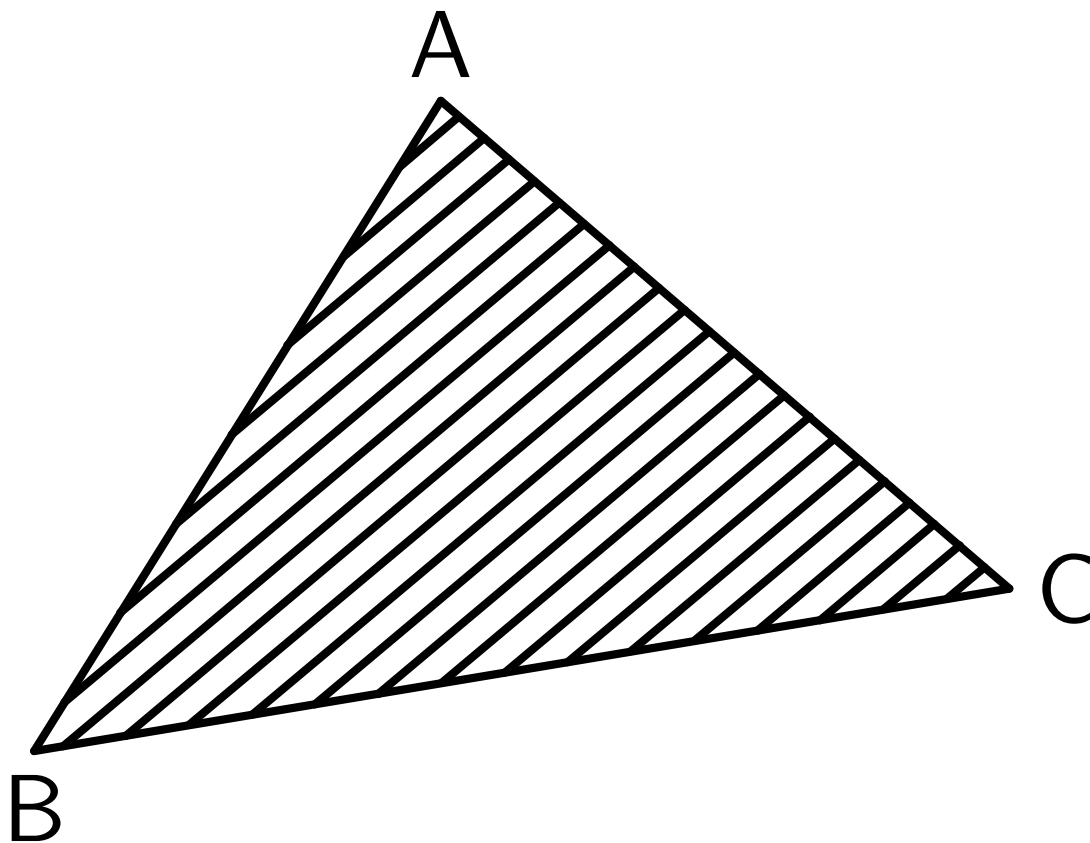
定義 単体複体 K のオイラー数 $\chi(K)$ を

$$\chi(K) = \sum_{q=0}^{\dim K} (-1)^q (\text{K の } q \text{ 単体の数})$$

で定める。

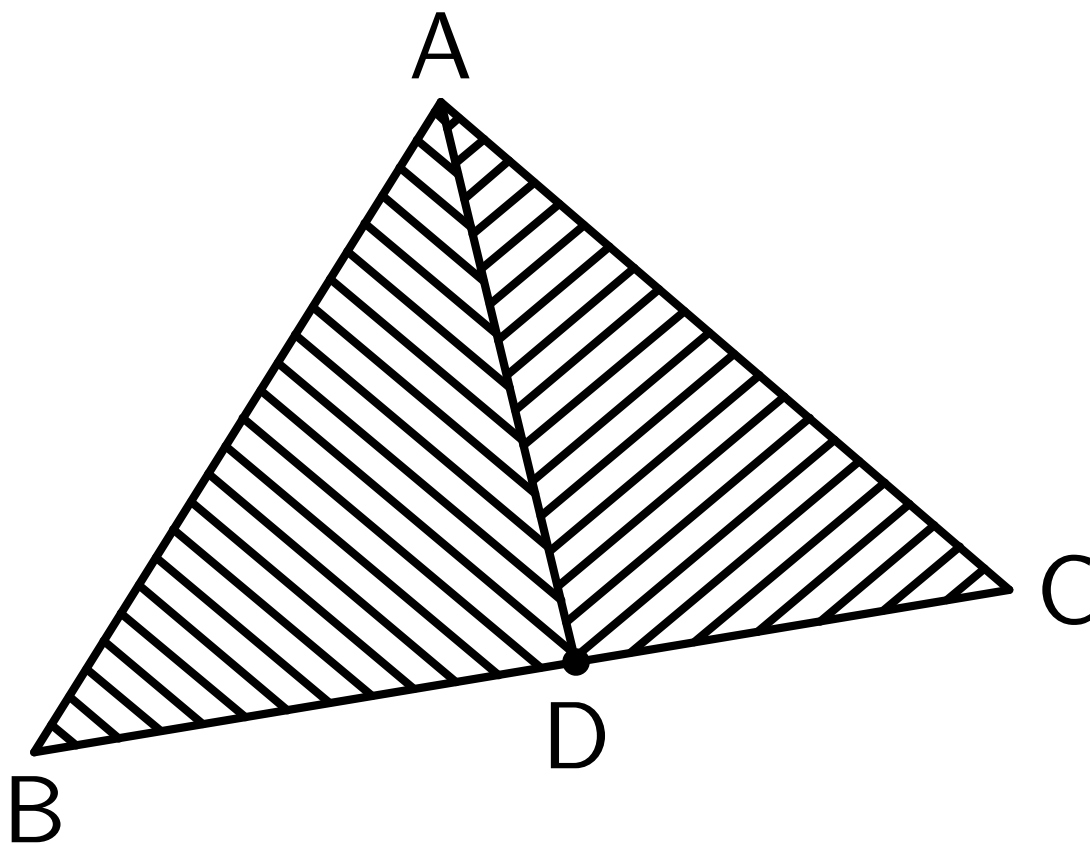
例 (1)

$$\chi(K(S)) = 3 - 3 + 1 = 1, \quad \chi(K(\partial S)) = 3 - 3 = 0.$$



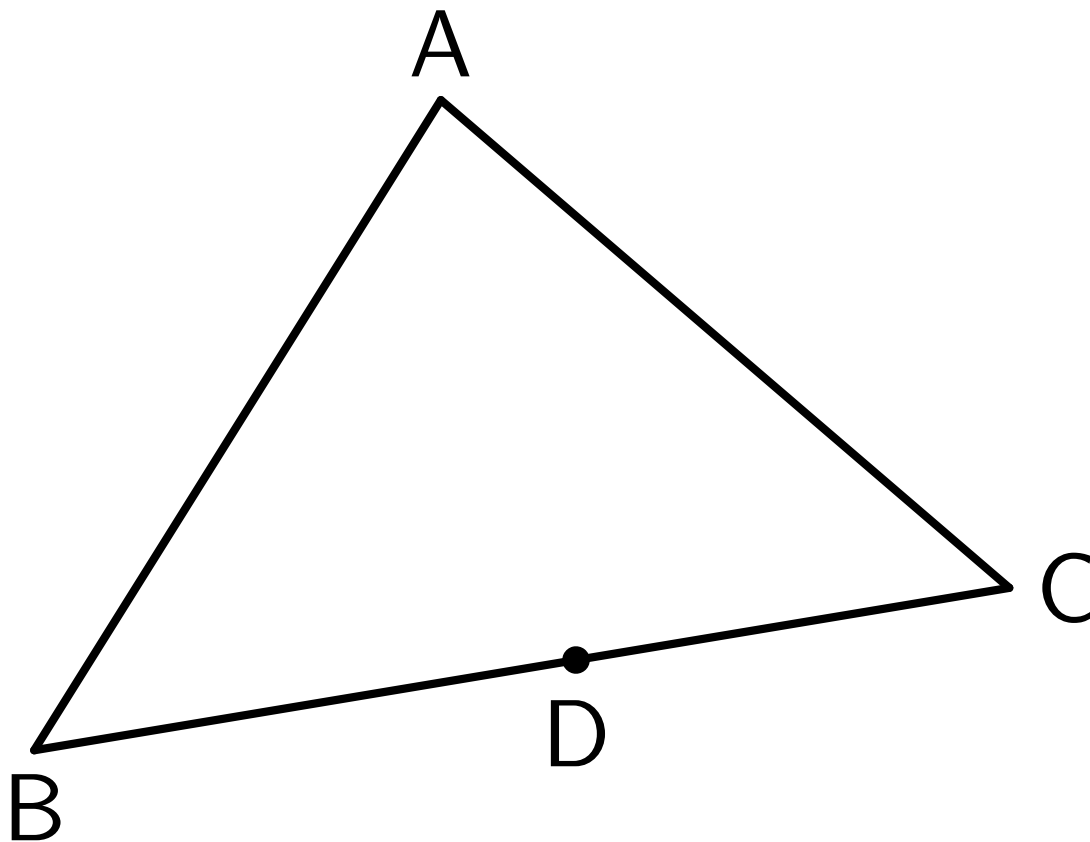
例 (2)

$$\chi(K') = 4 - 5 + 2 = 1.$$



例 (3)

$$\chi(K'') = 4 - 4 = 0.$$



命題

S を n 単体とすると、

$$\chi(K(S)) = 1,$$

$$\chi(K(\partial S)) = 1 - (-1)^n = \begin{cases} 0 & n \text{ が偶数のとき,} \\ 2 & n \text{ が奇数のとき} \end{cases}$$

が成り立つ。

証明
等式

$$(1 + (-1))^{n+1} = 0$$

の左辺に二項定理を適用して、等式

$$\binom{n+1}{0} C_1 - \binom{n+1}{1} C_2 + \cdots + (-1)^n \binom{n+1}{n} C_{n+1} = 1$$

が得られる。従って

$$\chi(K(S)) = \binom{n+1}{0} C_1 - \binom{n+1}{1} C_2 + \cdots + (-1)^n \binom{n+1}{n} C_{n+1} = 1$$

$$\chi(K(\partial S)) = \binom{n+1}{0} C_1 - \binom{n+1}{1} C_2 + \cdots$$

$$+ (-1)^{n-1} \binom{n+1}{n} C_n = 1 - (-1)^n$$

定義 ある点 B と q 単体 $S = |A_0, \dots, A_q|$ の頂点 A_0, \dots, A_q の計 $q + 2$ 個の点が一一般の位置にあるとき、

$$B * S := |B, A_0, \dots, A_q|$$

を点 B と単体 S のジョイン (join) という。

単体複体 K に対し、次を仮定：

- $B * S$ が存在 ($\forall S \in K$)
- $(B * S) \cap (B * S') = B * (S \cap S')$ ($\forall S, S' \in K$)

単体複体 K に対し、次を仮定：

- $B * S$ が存在 ($\forall S \in K$)
- $(B * S) \cap (B * S') = B * (S \cap S')$ ($\forall S, S' \in K$)

このとき、

$$B * K := \{ |B|, S, B * S \mid S \in K \}$$

は単体複体である。

次元は $\dim K + 1$ である。これを K の錐 (cone) という。

定理 $\chi(B * K) = 1$.

証明 $B * K$ において

$$0 \text{ 単体の個数} = 1 + (K \text{ の } 0 \text{ 単体の個数})$$

$$1 \text{ 単体の個数} = (K \text{ の } 1 \text{ 単体の個数}) + (K \text{ の } 0 \text{ 単体の個数})$$

$$2 \text{ 単体の個数} = (K \text{ の } 2 \text{ 単体の個数}) + (K \text{ の } 1 \text{ 単体の個数})$$

⋮

$$n \text{ 単体の個数} = (K \text{ の } n \text{ 単体の個数}) + (K \text{ の } (n - 1) \text{ 単体の個数})$$

$$(n + 1) \text{ 単体の個数} = (K \text{ の } n \text{ 単体の個数})$$

であるから、

$$\begin{aligned}\chi(B * K) &= 1 + (K \text{ の } 0 \text{ 単体の個数}) \\ &\quad - (K \text{ の } 0 \text{ 単体の個数}) - (K \text{ の } 1 \text{ 単体の個数}) \\ &\quad + (K \text{ の } 1 \text{ 単体の個数}) + (K \text{ の } 2 \text{ 単体の個数}) \\ &\quad - \dots \\ &\quad \vdots \\ &\quad \pm (K \text{ の } (n - 1) \text{ 単体の個数}) \pm (K \text{ の } n \text{ 単体の個数}) \\ &\quad \mp (K \text{ の } n \text{ 単体の個数}) \\ &= 1\end{aligned}$$

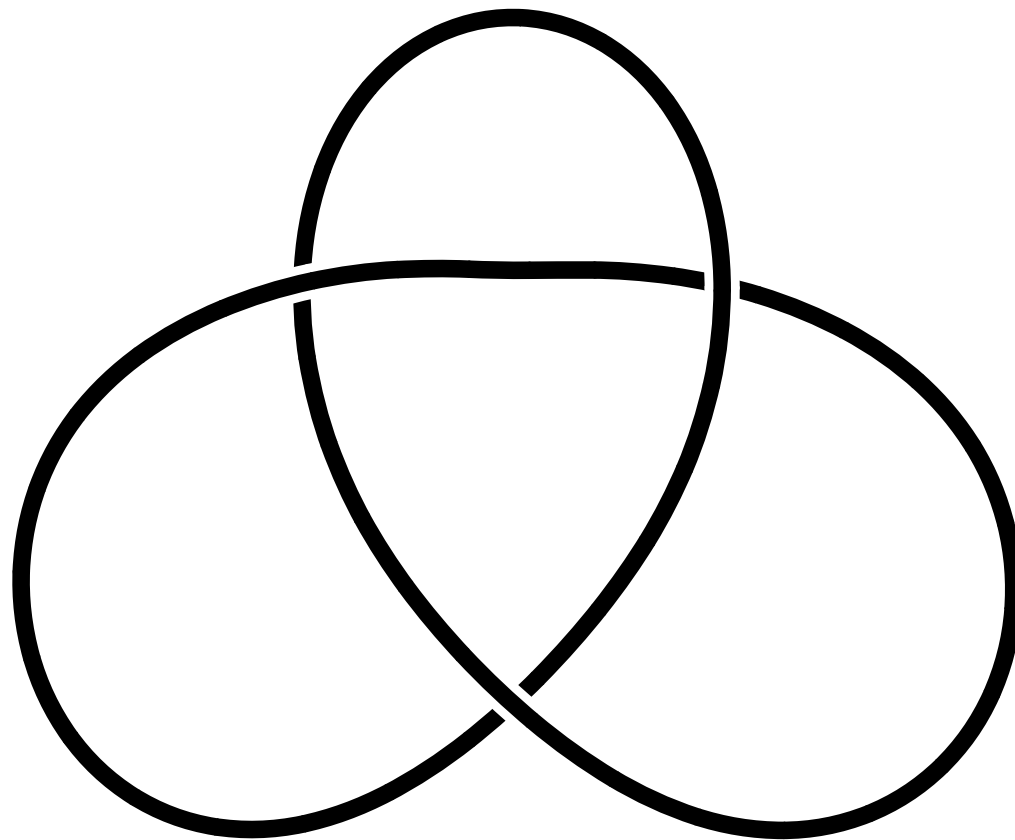
3. 結び目の補空間

結び目とは・・・

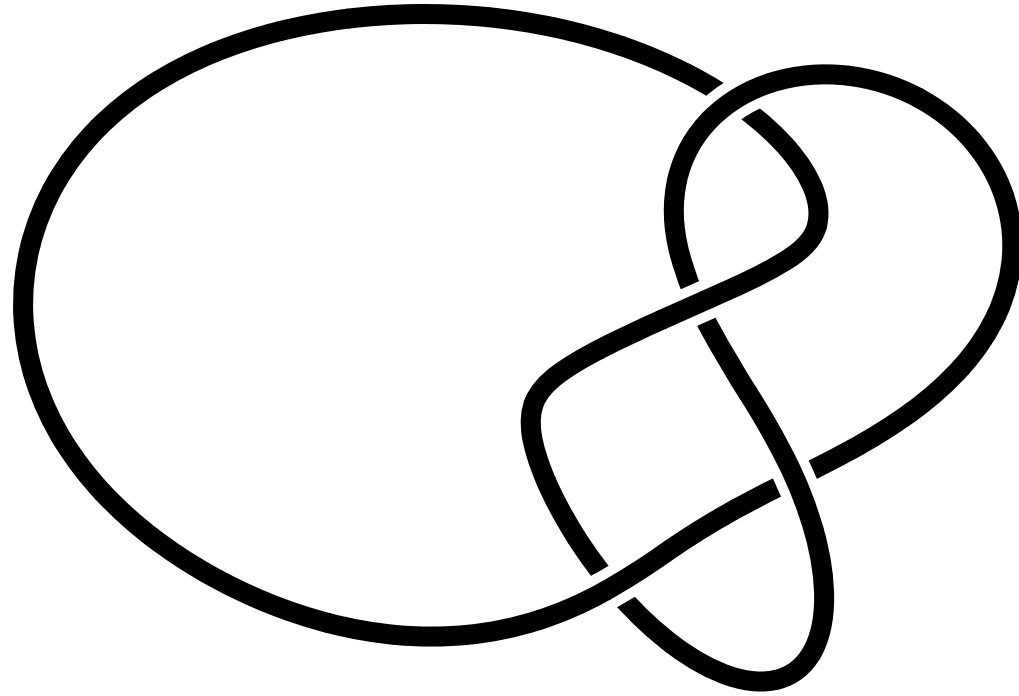
結び目とは・・・

三次元球面 $S^3 = \mathbf{R}^3 \cup \{\infty\}$

の単一閉曲線 K のこと



三葉結び目



8 の字結び目

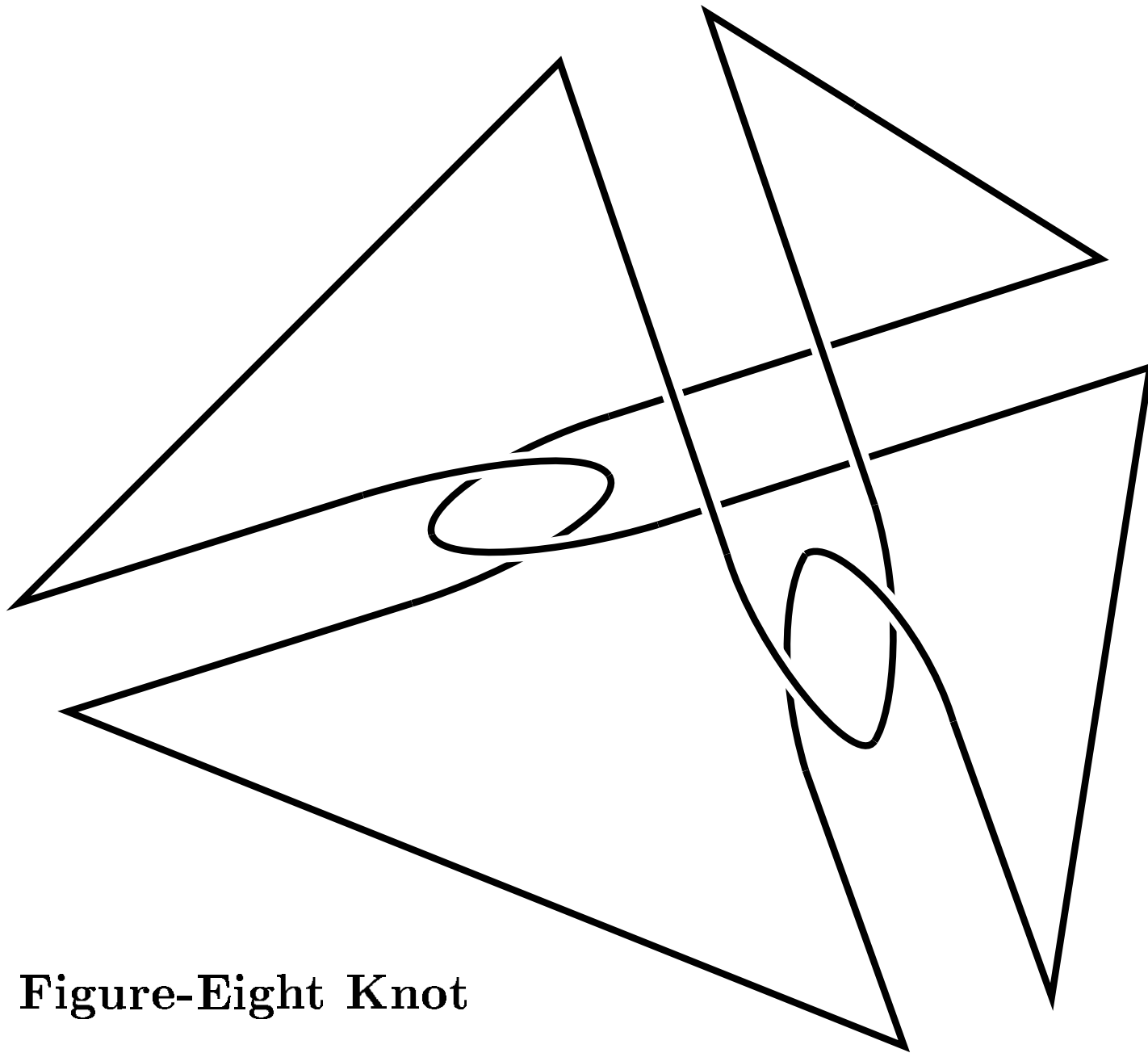


Figure-Eight Knot

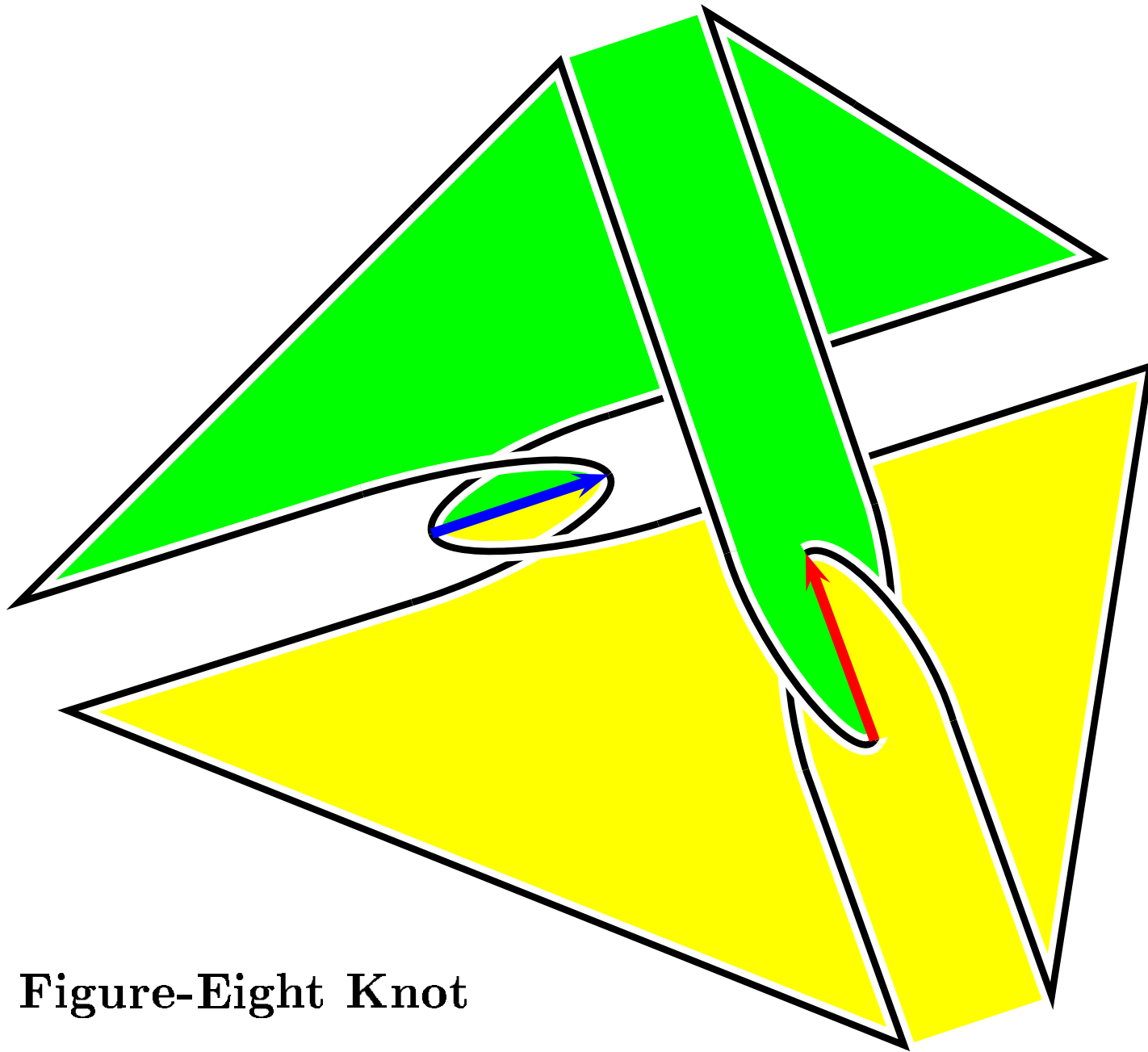


Figure-Eight Knot

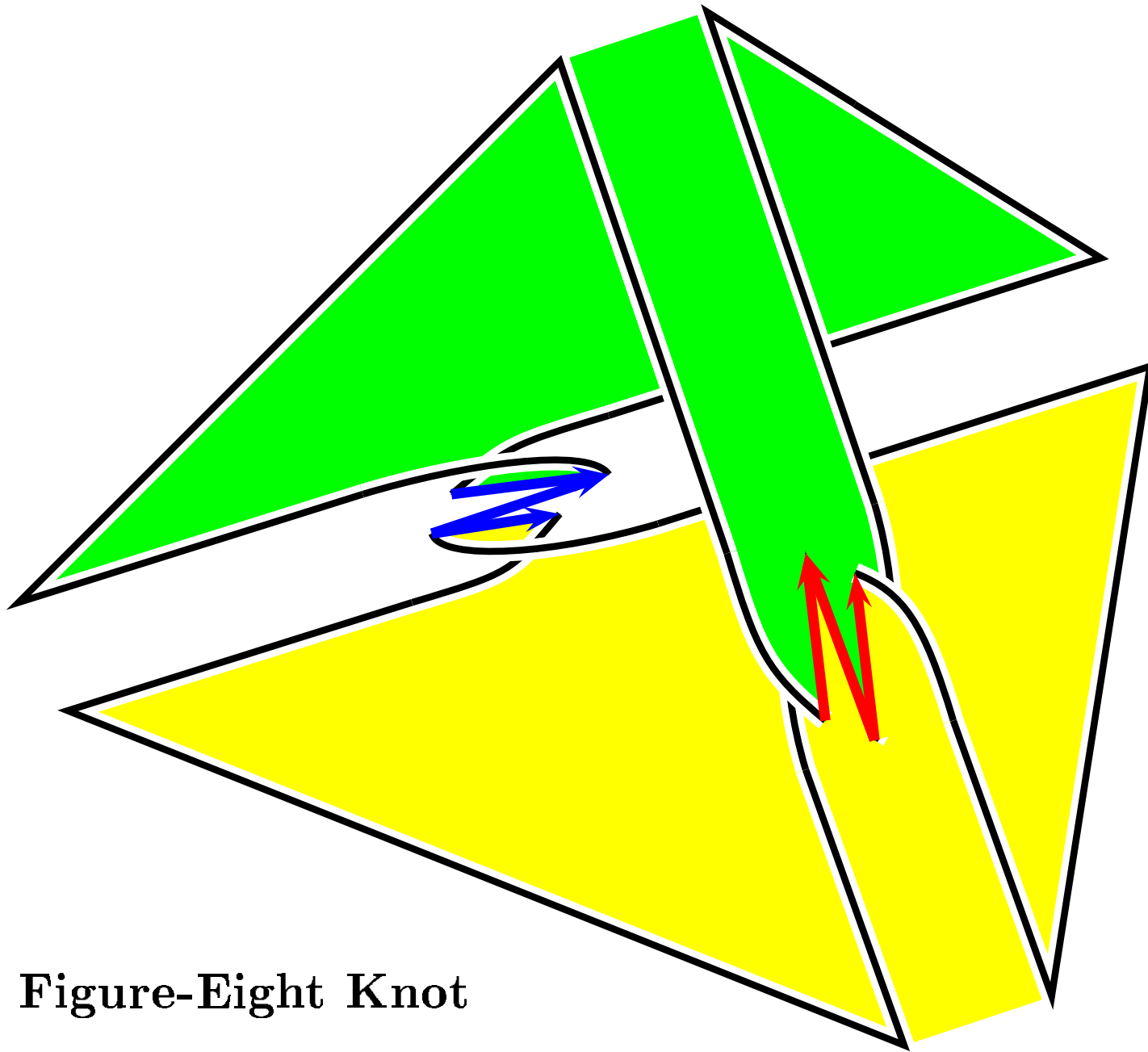


Figure-Eight Knot

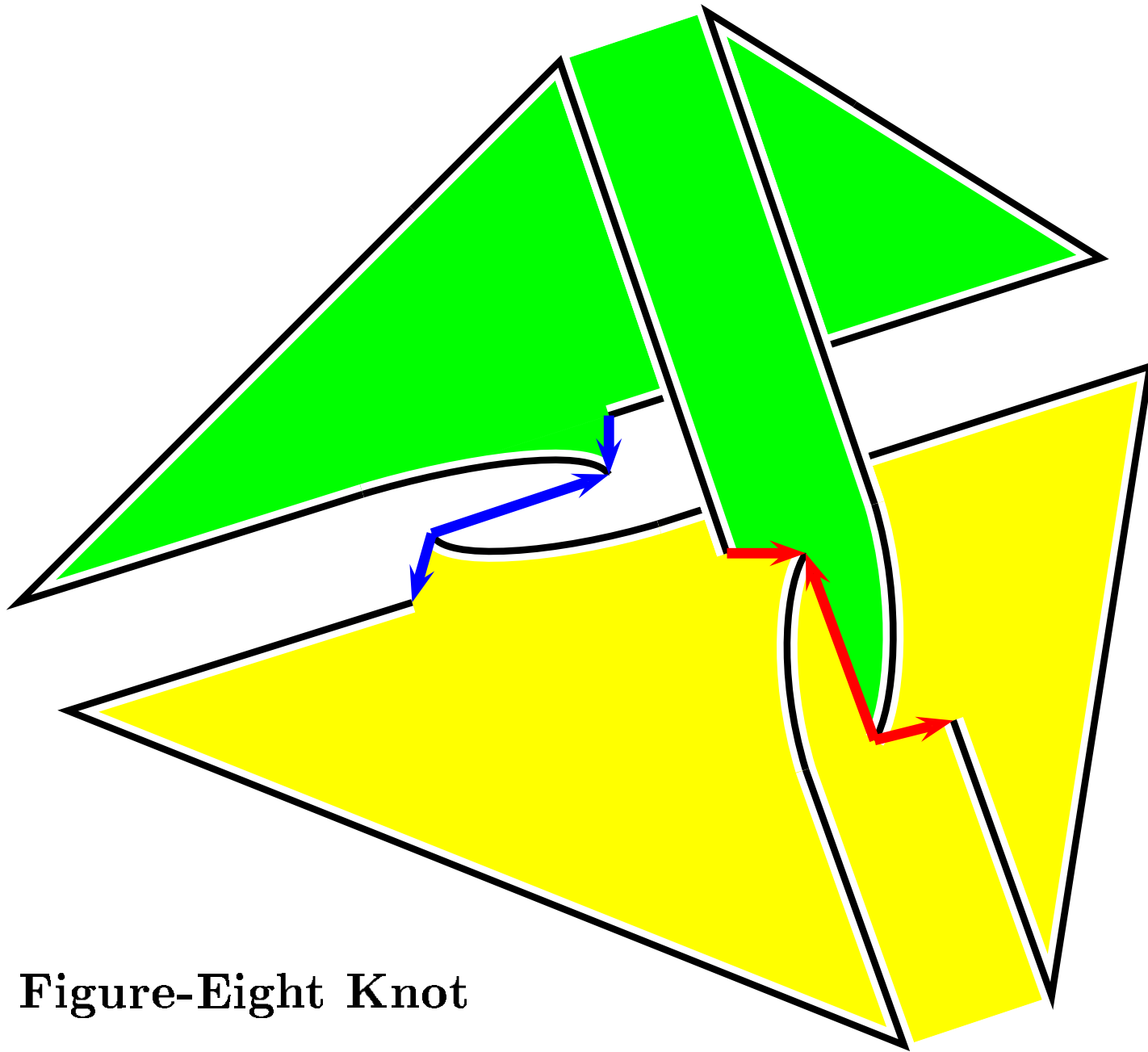
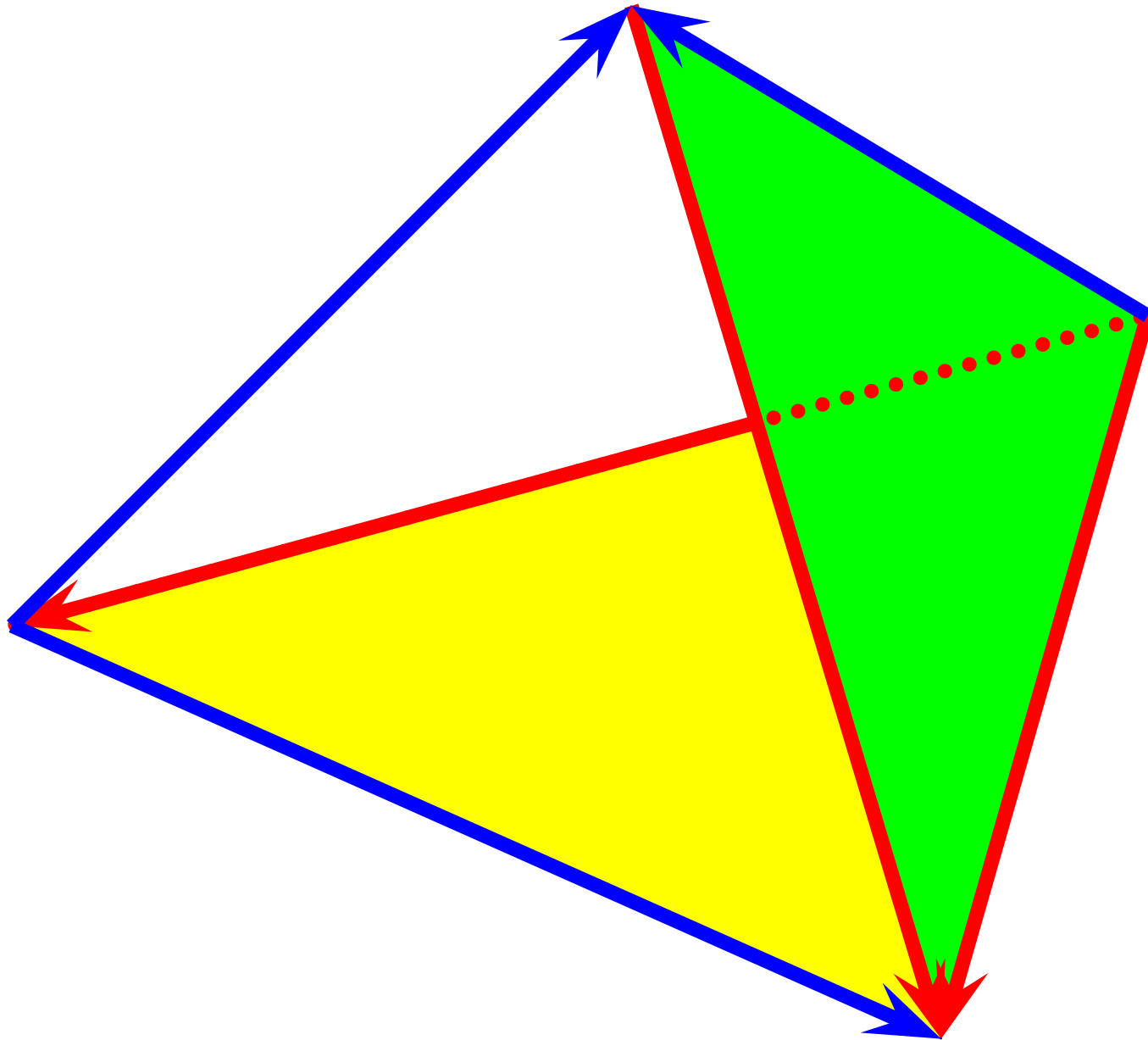


Figure-Eight Knot



外側を観察するには、膜を裏返す必要がある。

このとき青い矢印の向きが変わる。

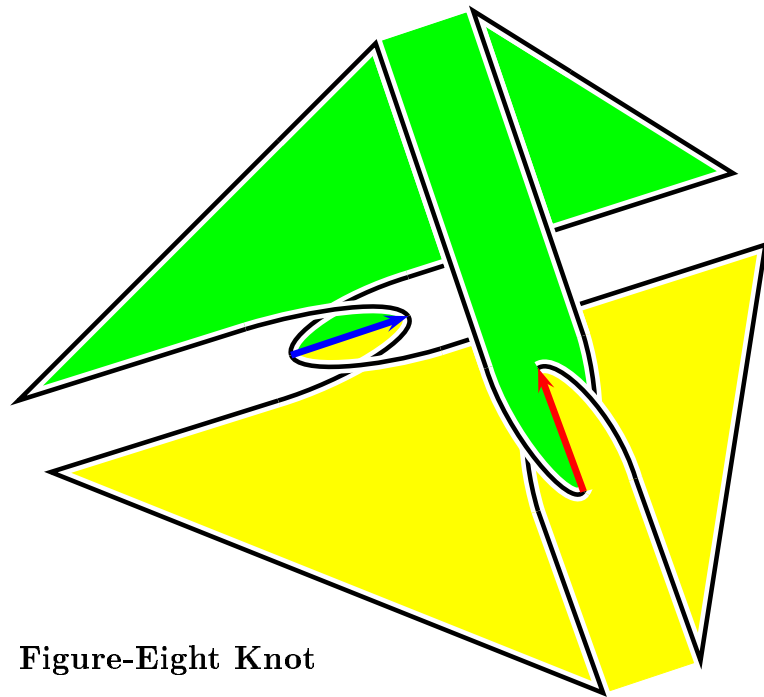


Figure-Eight Knot

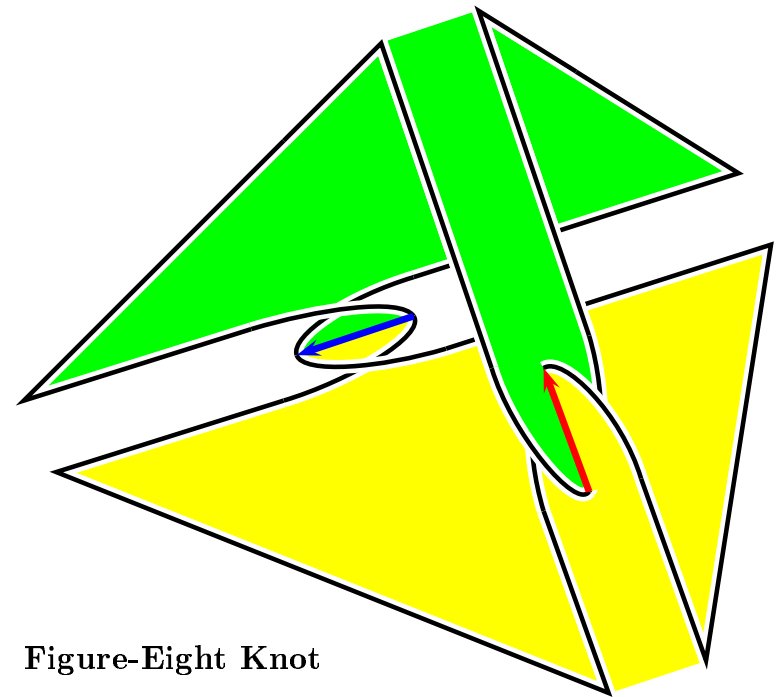
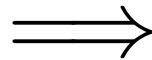
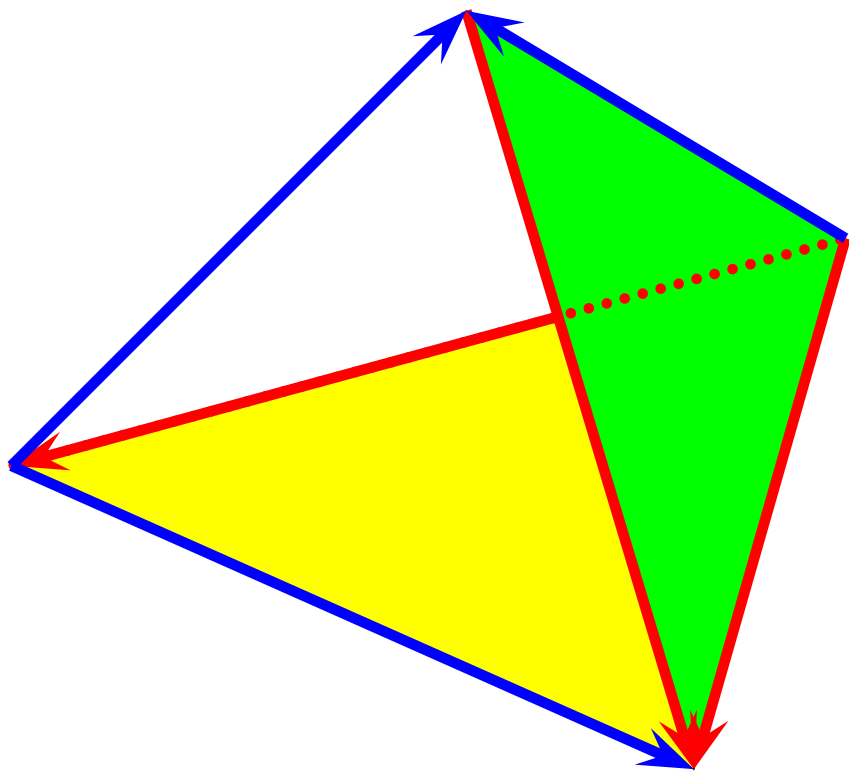
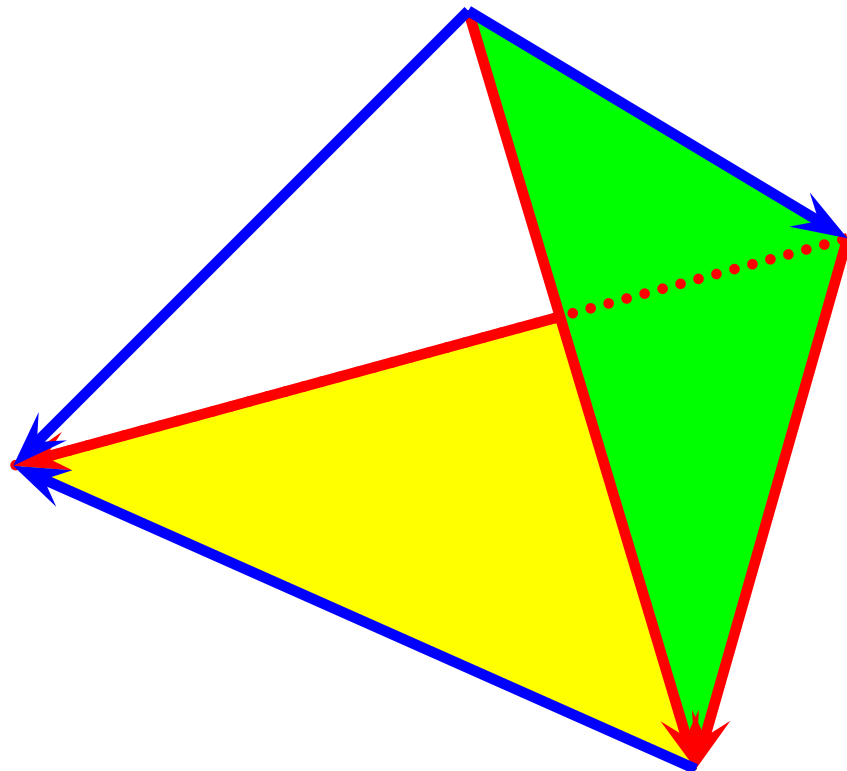


Figure-Eight Knot

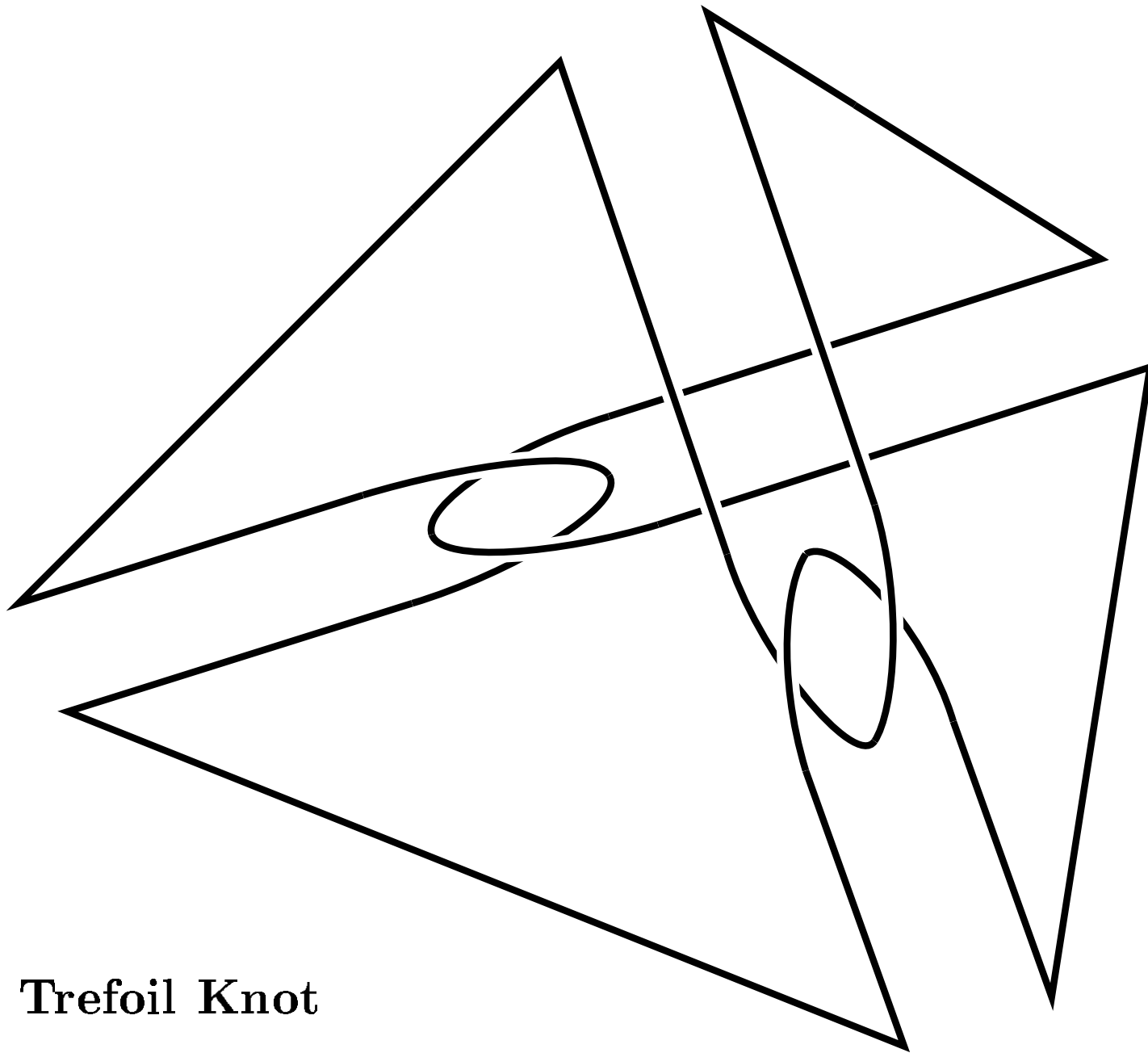
8の字結び目の補空間の分割：



内側



外側



Trefoil Knot

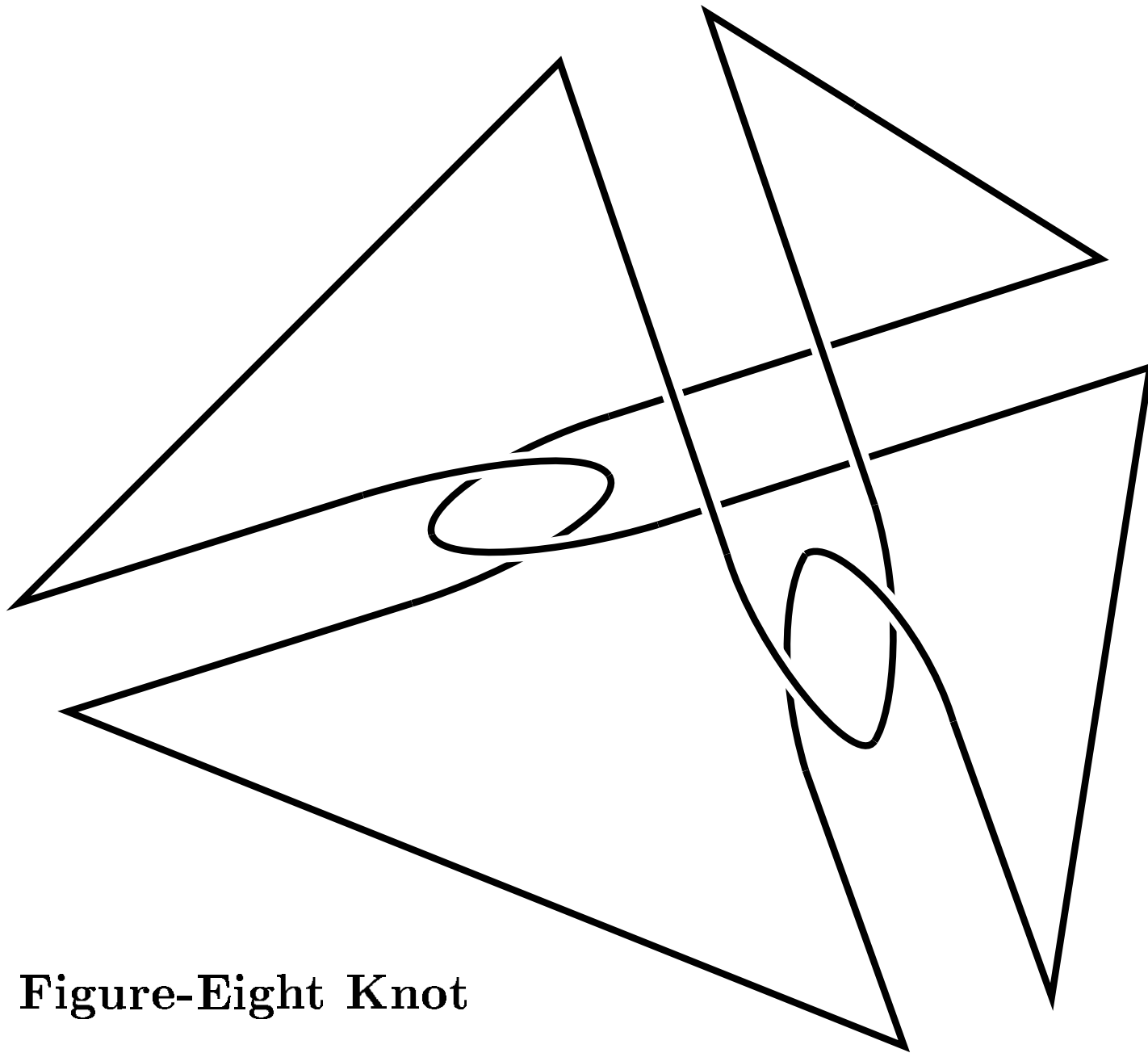
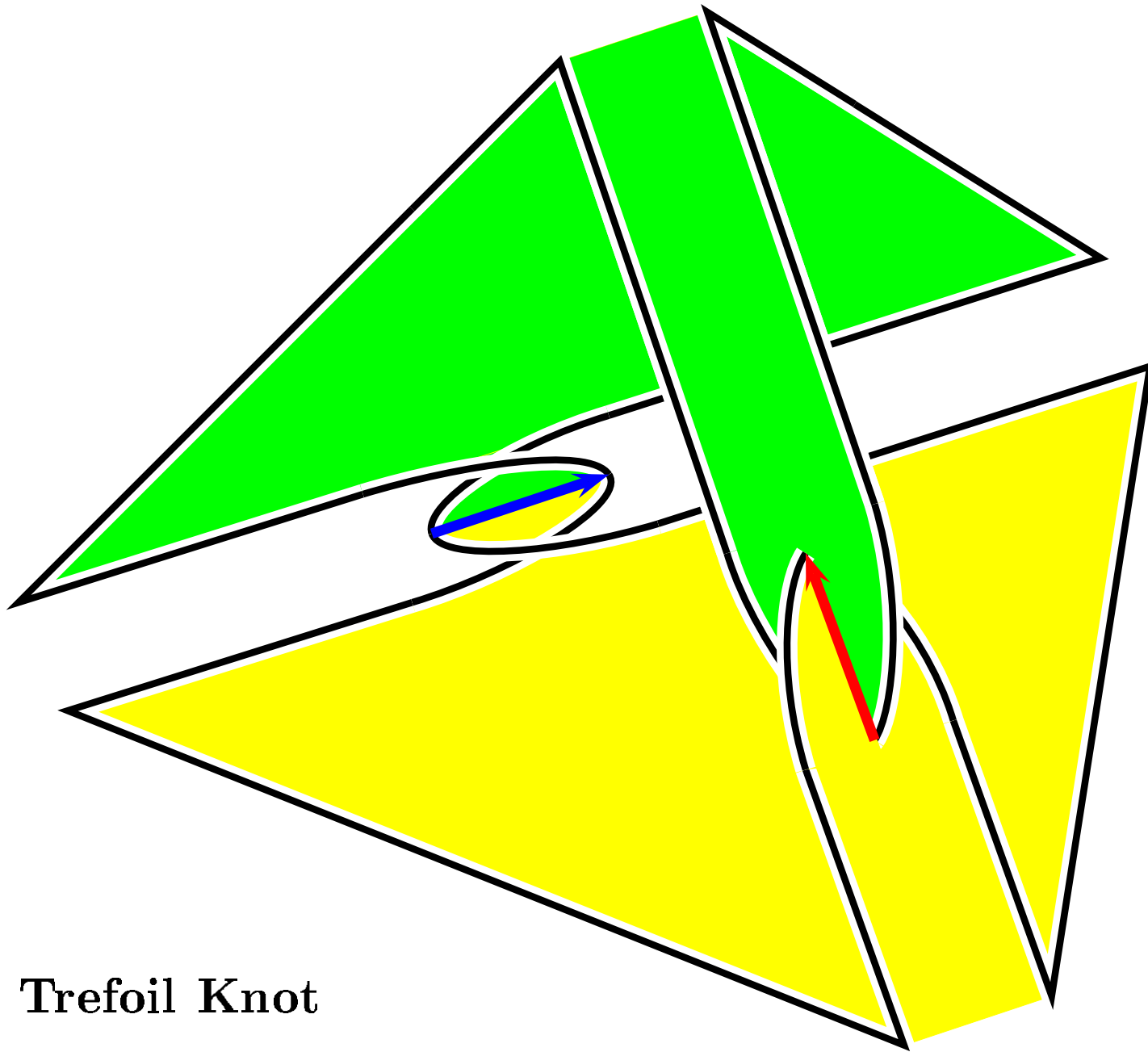
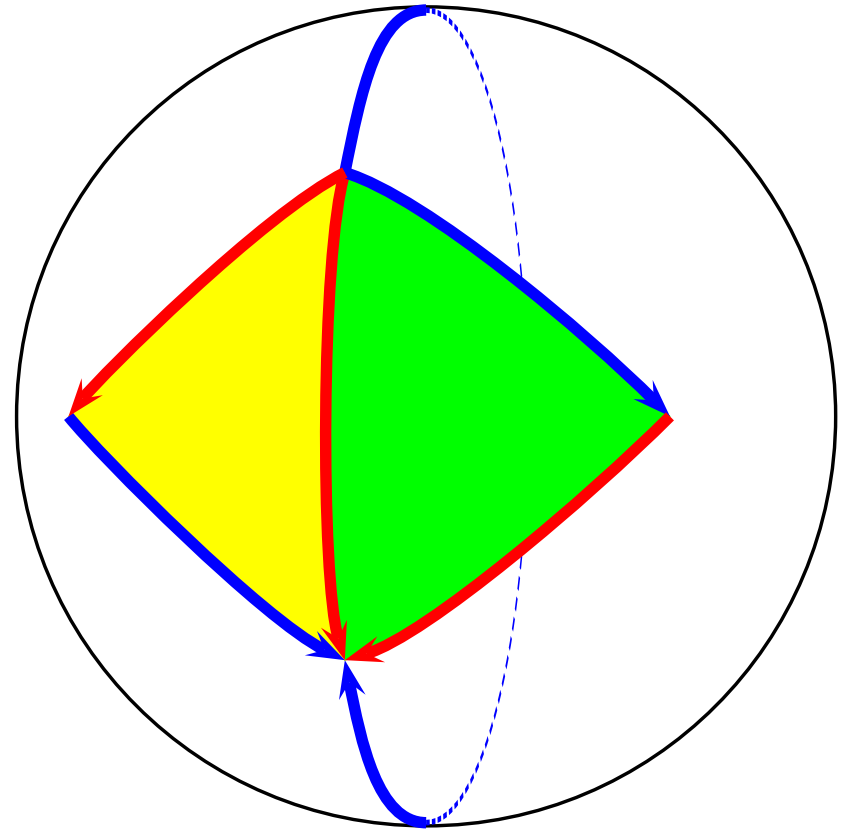
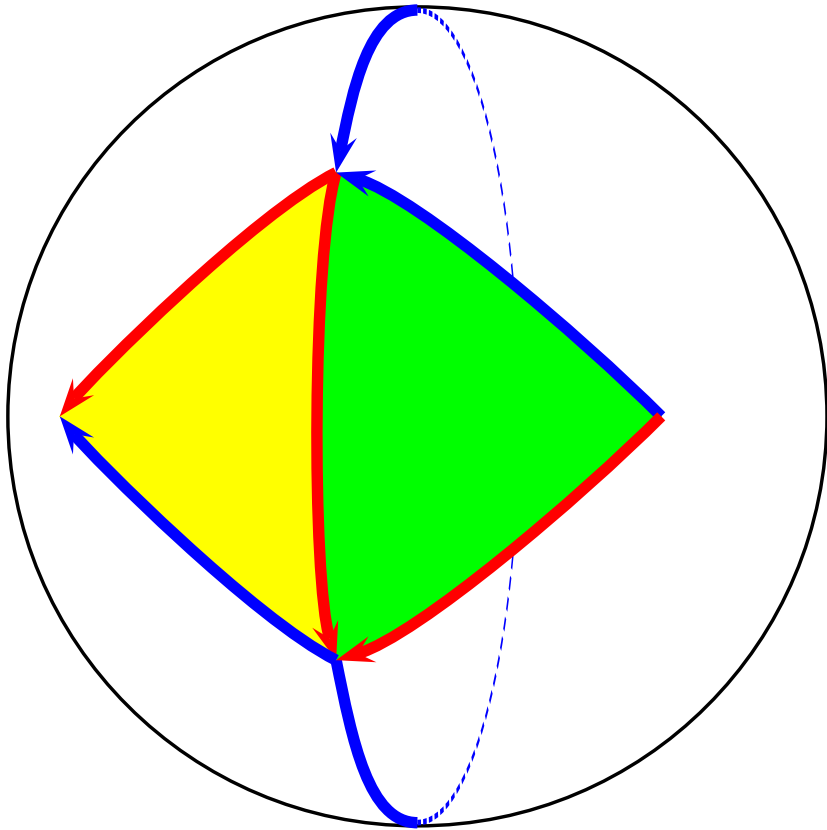


Figure-Eight Knot



Trefoil Knot

三葉結び目の補空間は次のふたつの理想 3
胞体に分割できることがわかった：

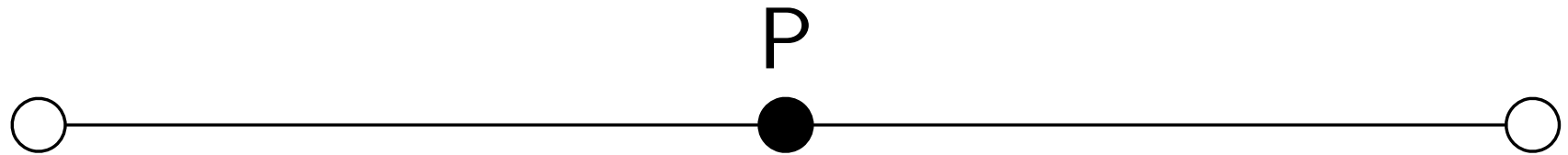


8 の字結び目の補空間の理想

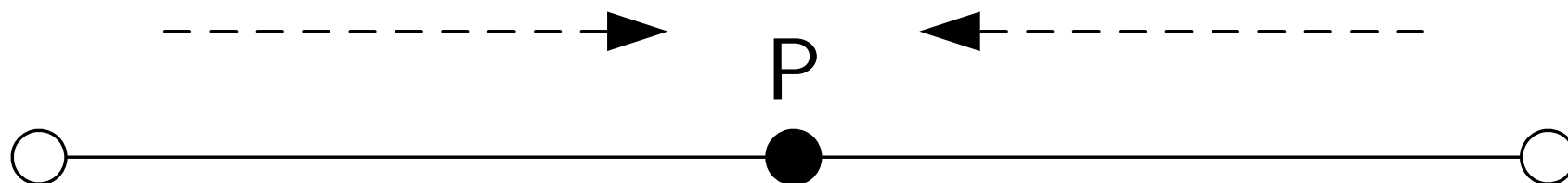
3 単体への分割から

“ よい双対脊柱 ” を構成する

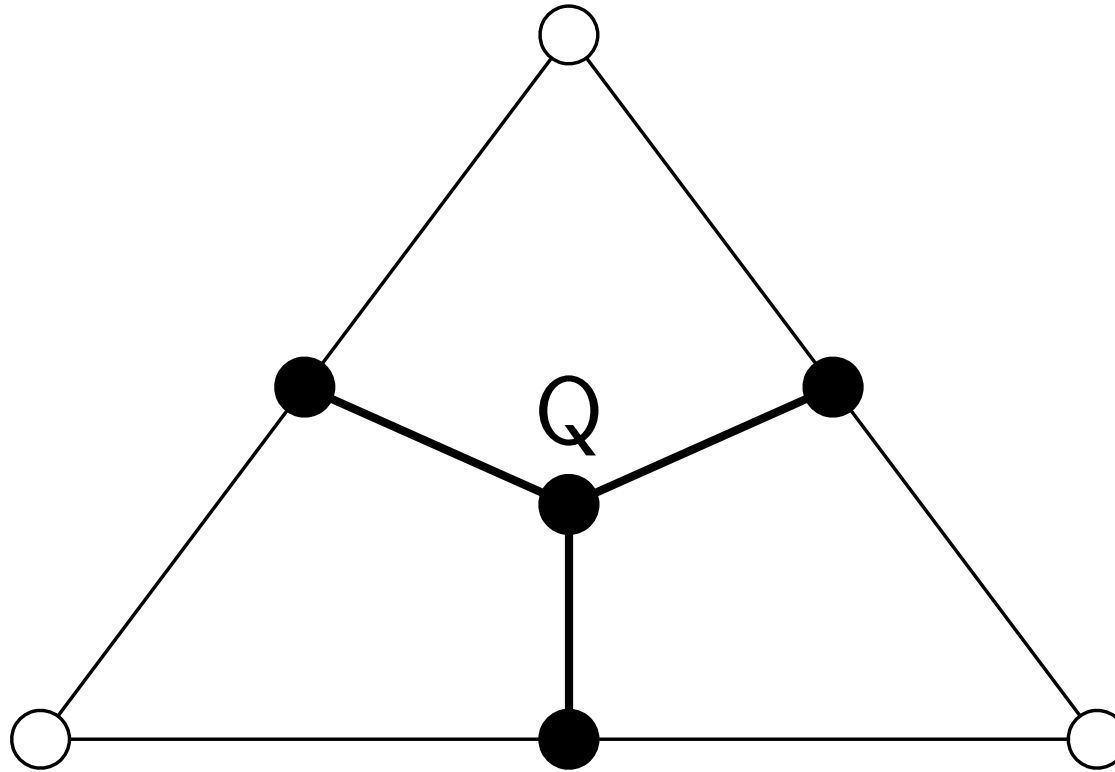
理想 1 単体の双対脊柱



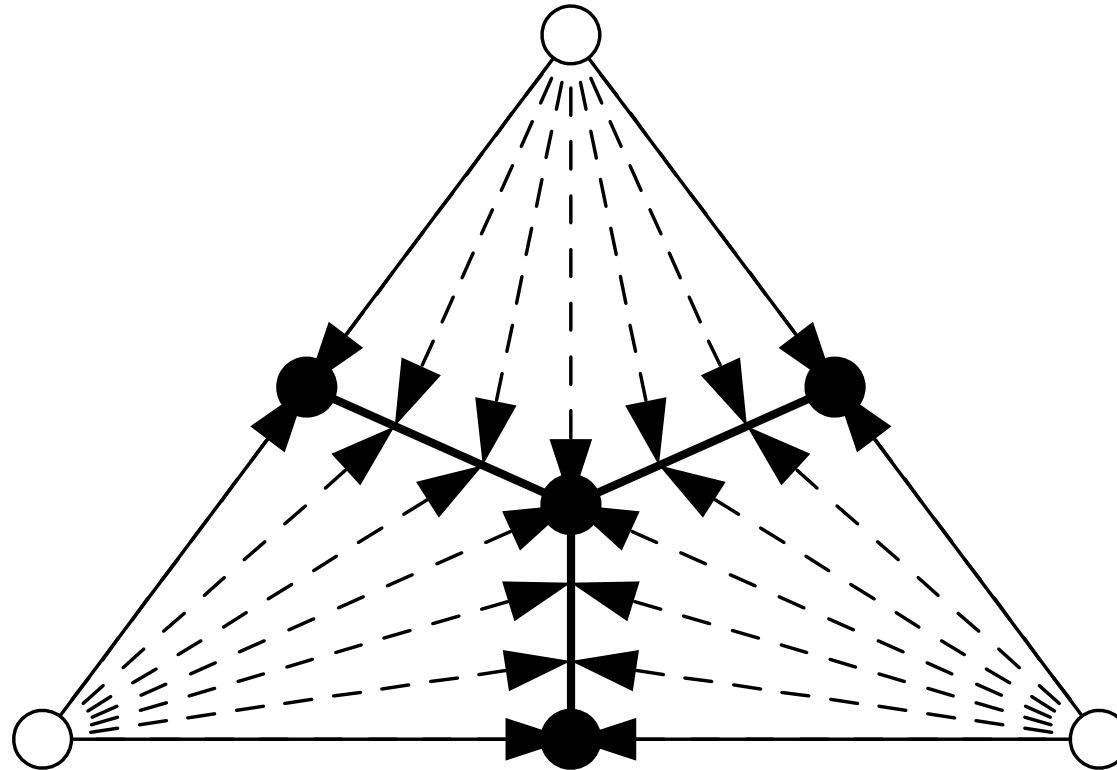
理想 1 単体の双対脊柱



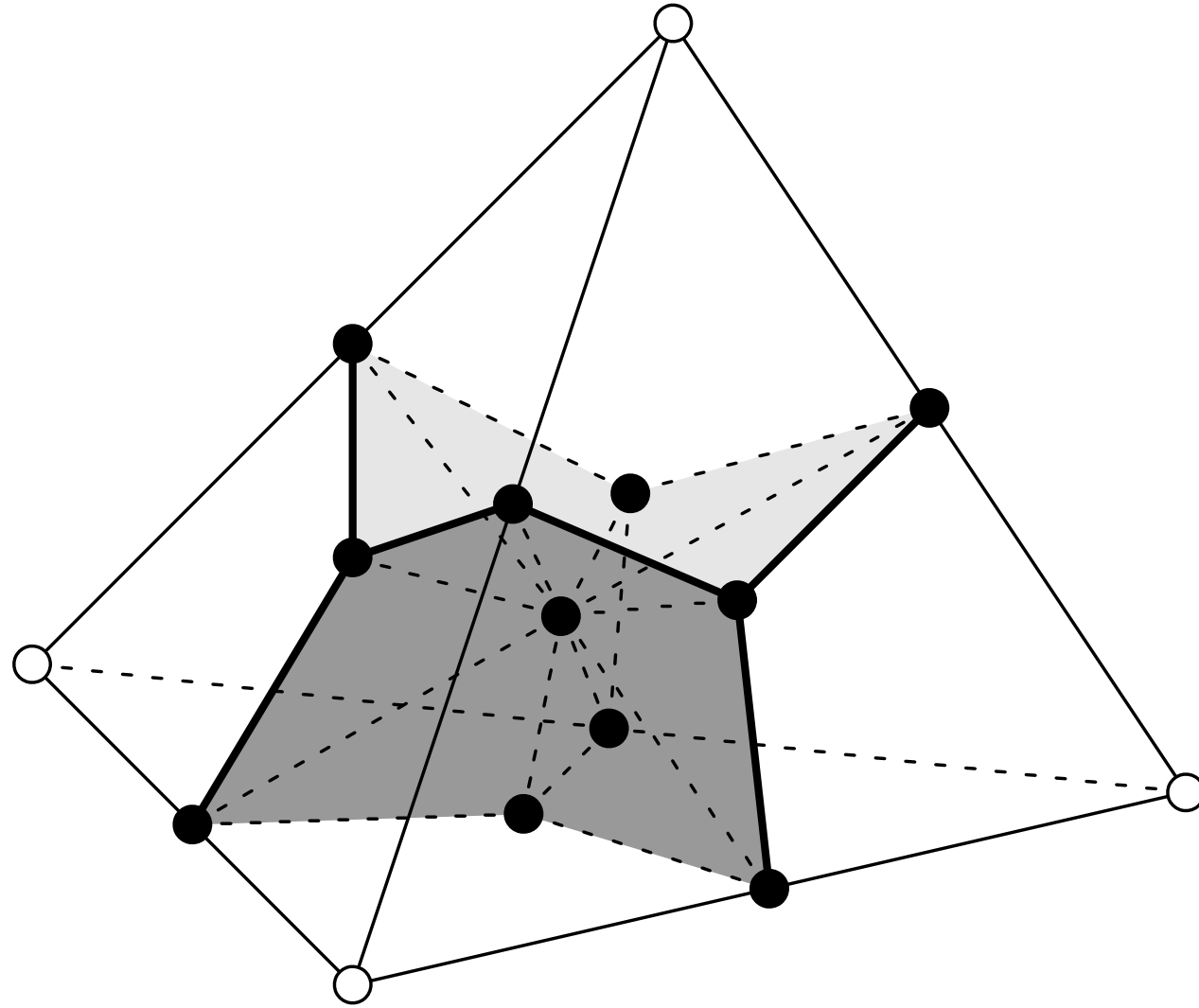
理想 2 単体の双対脊柱



理想 2 単体の双対脊柱

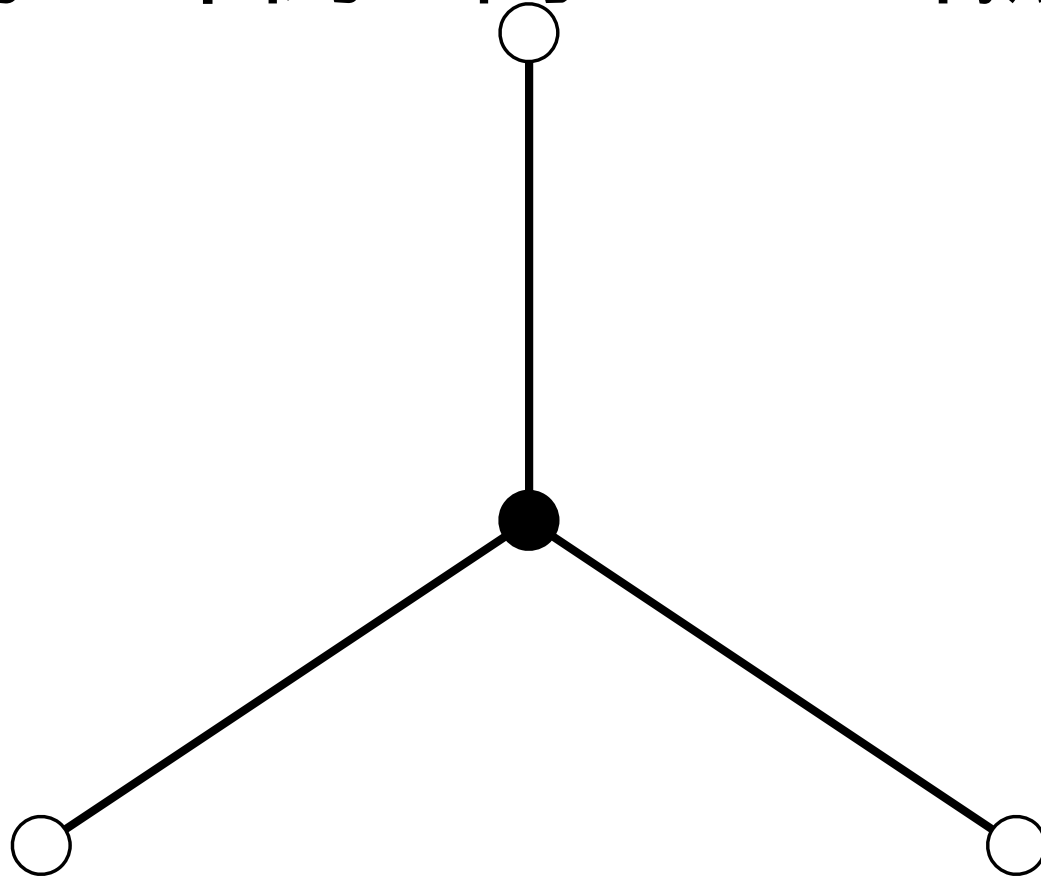


理想 3 単体の双対脊柱



三葉結び目の理想 3 胞体への
分割の場合もほとんど同様

$S^3 - K$ を双対脊柱 X へつぶす写像による
各点の逆像は半開区間たちの端点での和：



“よい” 脊柱と呼ぶ。

一般の結び目 K に対し、 S^3 における K の管状近傍を $N(K)$ とし、四次元の図形 $M(K)$ を次のように定める：

$$M(K) = \partial((\mathbf{S}^3 - \text{int}N(K)) \times \mathbf{D}^2)$$

一般の結び目 K に対し、 S^3 における K の管状近傍を $N(K)$ とし、四次元の図形 $M(K)$ を次のように定める：

$$M(K) = \partial((\mathbf{S}^3 - \text{int}N(K)) \times \mathbf{D}^2)$$

$S^3 - K$ のよい脊柱の存在

$\implies M(K)$ の手術障害類理論の成立